松本零士原作 銀河鉄道999より

GALAXY EXPRESS

The Musical

999



東京オピニオンズフェスティバル


999

東京オピニオンズフェスティバル

松本零士原作 *銀河鉄道999*より

GALAXY EXPRESS

The Musical

999



1997

11/5 Wed ▶ 12/10 Wed

アートスフィア（天王洲アイル）

ごあいさつ



東京オピニオンズは、天王洲アイルの劇場「アートスフィア」を舞台として新しい文化を創造し、育成していこうとする14社が集まったグループであります。自主企画公演「東京オピニオンズフェスティバル」では、コンサート、演劇、舞踊、ミュージカルなど、多彩な演目をご紹介しております。

6回目となる本年度お届けする作品は、日本のみならず、世界中で多くの人々から愛されている松本零士原作の「銀河鉄道999」をミュージカル化した「GALAXY EXPRESS 999」です。

この「GALAXY EXPRESS 999」は、演出・振付のジェームス・ロッコを始めブロードウェイと日本のクリエイティブスタッフが、共同で、その才能と情熱の全てを注ぎ込み創り上げました。そしてジャンルや国境を越えて集まったキャストを加え、日米合作によるオリジナルミュージカルが誕生しました。この壮大なスケールのもとに繰り広げられる愛と勇気の物語をどうぞご堪能下さい。

最後になりましたが、共同主催のテレビ朝日、エフエム東京を始め、この公演の実現のために多大なご尽力を賜りました関係者各位とご来場頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

東京オピニオンズ代表理事
三菱商事株式会社
取締役会長

諸橋　晋六



松本零士原作の「銀河鉄道999」は、連載開始から20年を越え、欧米・アジアの世界各国で翻訳出版されています。そして、その人気は、きたる1999年に向け、いよいよ勢いを増しております。

本公演は、その世界的名作を原作とした本格的なオリジナルミュージカルです。松本アニメの持つ独特のファンタスティックな世界と、選び抜かれたアクター、ダンサーたちの表現力が舞台上で融合し、観客の皆様を宇宙へと誘います。

弊社では、1983年の「SOPHISTICATED LADIES」を皮切りに、昨年の「WEST SIDE STORY」まで12本にのぼるブロードウェイミュージカルの招聘をはじめとし、永年、質の高いミュージカルを日本のファンにお届けしてまいりました。本公演も、また、皆様に深い感動を与えられる作品になりましたことを、大変嬉しく思っております。原作の松本零士、作曲のシュン・トクラほか、日米の制作スタッフや、出演者の夢と情熱を乗せた「GALAXY EXPRESS 999」の旅をどうぞご堪能ください。

最後に、東京オピニオンズの各社、エフエム東京をはじめ、本公演の開催に向けご尽力頂きました関係各位に厚く御礼申し上げます。

テレビ朝日
社長

伊藤　邦男

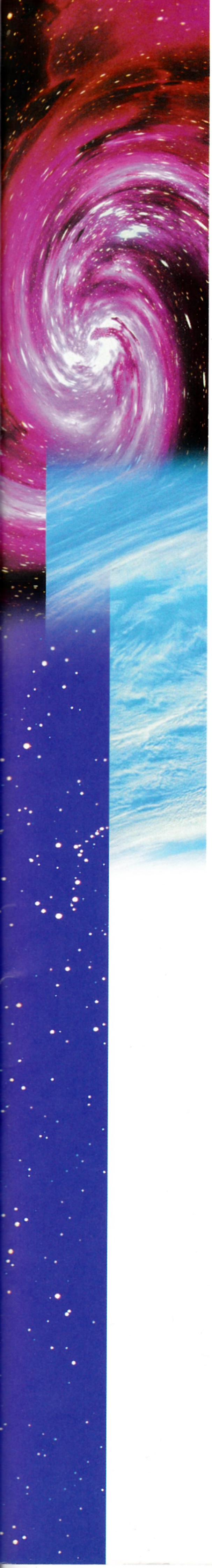


本日は「GALAXY EXPRESS 999」にご来場頂きまして、誠にありがとうございます。この作品は日本が生んだ傑作として、世界でも評価の高い松本零士原作の「銀河鉄道999」をもとに、日本とブロードウェイから選りすぐられたクリエイターたちが、才能と情熱を結集させ創り上げた日米合作のミュージカルです。現在東京では、日々様々な劇場のもとで、数え切れない作品が上演されています。わたくしどもTOKYO FMは、「感動と共感」のネットワーク創りを願い、日々の放送はもとより、コンサートをはじめ、数々の優れたエンターテインメントを皆様にご提供しております。今回アートスフィアを起点に、今後世界に向けて発信するこの大作「GALAXY EXPRESS 999」を上演できますことを大変光栄に存じます。愛、夢、勇気そして「生きるエネルギー」がテーマのこの作品は、国籍もジャンルも越えた壮大なスケールで必ずや皆様の感動を呼び起こし、21世紀に残る作品となるものと確信しております。

最後に東京オピニオンズの各社、テレビ朝日をはじめ、この作品の上演にご尽力を賜りました関係各位に心から御礼申し上げます。

株式会社エフエム東京
代表取締役社長

後藤　亘



東京オピニオンズ理事





「GX999」企画・製作にあたって
ー日本のミュージカルの新しい旅立ちー

お祭りを見ると、わけもなく心が浮き立ちます。それは人が本能の部分でライブ ——生のエンターテインメント—— に魅かれるということではないでしょうか。どんなにバーチャルリアリティの技術が進歩しても、家にいながら世界中の情報を得られるとしても、いえ、そうした状況が進むほど、人は限られたチャンスの中で、質の高いライブを求めます。「いいライブに出会いたい」という気持ちは、人間のとても自然な欲求なのです。

そんな自然な気持ちから、The Musical「GALAXY EXPRESS 999(GX999)」は生まれました。「いいライブが見たい」が「自分達の手でいいライブをつくりたい」へ、そして「せっかくつくるなら世界中の人に見てもらいたい」という大きな夢へ向けて動き出したプロジェクト、それが「GX999」です。

それにしてもなぜ今「999」なのかと思われる方もいるでしょう。理由はシンプルです。世界に通用する強さと大きさを持つ原作を探した結果、松本零士原作の「銀河鉄道999」が最もふさわしかったのです。少年・鉄郎の旅に託されているのは、夢や希望の尊さ、出会いの美しさと別れの痛み、善悪だけでは割り切れない人の心の不思議と深さ、それらを知ってなお前に進む勇気・・・。この普遍的なテーマは、コミック誌の連載から約20年という時を経ても、まったく輝きを失いません。宇宙を舞台にした広大なあの物語がミュージカルにできるのか、プロジェクトの最初に感じた不安は次第に、世代も性別も超えるこの素晴らしい物語のスピリットをぜひライブに昇華させたい、という願いに変わっていきました。同時に、海を越えた舞台でもきっと通用するという手応えをも感じたのです。

東京オピニオンズフェスティバルでは、これまでにさまざまなジャンルのライブエンターテインメント作品を上演しています。オリジナリティにこだわり、特にミュージカルでは宮本亜門演出の「香港ラプソディ」('93年)や熱帯祝祭劇「マウイ」('95年)などで、すぐれたアジアの才能とのコラボレーションを実現、早くから海外に目を向けてきました。こうした経験から、海外公演を目指すなら英語で脚本を立ち上げる必要があるという知識を得たのです。そのため「GX999」では脚本も歌詞も最初に英語で起こし、それを日本語に翻訳するという作業をおこなっています。スタッフとキャストを選ぶ際も、まったく国籍やジャンルにはこだわりませんでした。その結果、原作の大きさに負けないインターナショナル性、エンターテインメント性を身につけることができたと自負しています。

“世界を視野に入れたオリジナルミュージカル”という試みは、ようやく一歩を踏み出しました。その最初の着地点は、今日お集まりいただいた皆さんの心です。舞台が発散する生のエネルギーを感じてください。そして、客席からも感じ取ったエネルギーを放出してください。舞台と客席とのこうしたエネルギーのぶつかり合いがパワーとなって、劇場に命を吹き込むのです。この「GX999」が、皆さんの「いいライブに出会いたい」という気持ちに充分に応えられるものでありますよう、心から願っています。

アニメーションと舞台の、いい形の融合を。

松本零士



原作者という立場でありながら、私は今、観客として、この「GALAXY EXPRESS 999」の上演を非常に楽しみにしております。その最も大きな理由は、日本の感覚だけでつくられるものではないという点にあります。アメリカ・ブロードウェイの感覚と技術がふんだんに盛り込まれ、ミュージカルとしてどんなふうに生まれ変わるのか。その点だけでも、今までのどんな「999」とも違うものになるはずですし、期待に胸がふくらみます。スタッフ、キャストともに経験豊かな方が集まったプロジェクトなので安心はしておりますが、願わくばこの舞台が、今日来場された皆さんの波長に合いますようにと願っています。そしてさらに、日本だけでなく世界のどの国に持っていっても通用する、誰にでも楽しんでもらえる作品であることを、心から祈る次第です。

私は最初から「銀河鉄道999」を、子供向けの漫画としては描きませんでした。子供も大人も楽しめ、感動し、また納得できる物語として描こうと考えたのです。そして人間としての夢、希望、信頼といった大きなメッセージをバックボーンに込めました。それが国や時代を超えて理解されたからこそ、アジアやヨーロッパ、アメリカでもTVで放送されたり、ビデオが発売されたりと、共通の理解を得ることができたのでしょう。つい先日もオーストラリアから「『999』の一部を教科書に使わせてほしい」というオファーがありました。こうした作品のメッセージは、今回の舞台でも大切にされています。脚本家のメラニー・ミンツさんとは、登場人物の関係や「999」の世界観など、舞台には出てこない部分までも細かくディスカッションを重ねました。とはいっても表現形態のまったく違うものですから、印象が変わる部分もあるでしょう。しかしそれは“変化”ではなく、アニメーションと舞台の“融合”の結果であるはずです。さまざまな演出、衣裳、歌、踊りといったミュージカルならではの「999」の世界を、どうぞ楽しんでください。

実は1999年に向け、新たなTVアニメや映画などを含めた「999」のプロジェクトが動き出しています。その一貫として平成9年9月9日、営団地下鉄や郵政省で記念乗車券や絵はがきを記念発売しましたが、いずれも1日で完売し、幸先のいいスタートを切ることができました。そして作品としては、このミュージカルがまさにスタートランナーとなります。21世紀に向けて走らせる一大プロジェクトですから、この点からも「GALAXY　EXPRESS　999」の成功を祈っているのです。「GALAXY　EXPRESS　999」の成功とは、世界各地での上演です。世界の人に私達の（あえて“私達の”と申し上げますが）作品を見てもらう。それは夢ではなくすでに現実です。現在、インターネットで「グレート・ハーロック」という作品を連載中ですが、1日のアクセス数は世界中から40万件にのぼります。これはまだまだ序の口で、今後、私達はますます、1億2千万人の日本から50数億人の世界を視野に入れる必要が増え、このミュージカルはその新しい旅となるでしょう。これは冒険ですから多少の危険は承知の上です。しかしそれでも出発する価値のある、素晴らしい冒険だと思うのです。そもそも「999」は旅の物語なのですから。

まつもとれいじ
1938年、福岡県久留米市生まれ。土地柄、幼少の頃からアメリカンコミックと日本の漫画に同時に親しみ、自分でも小学生の頃から漫画を描き始める。54年、「蜜蜂の冒険」で雑誌『漫画少年』の第1回長編漫画新人王を獲得。高校卒業後、本格的な漫画家活動をスタートするために上京。この時の夜行列車の体験が「999」のイメージにつながったという。72年、「男おいどん」で講談社出版文化賞を受賞。その後、「宇宙戦艦ヤマト」「銀河鉄道999」が、映画やサントラ盤も含めて大ヒット。のちに海外にも飛び火し、日本のアニメーションが海外でヒットする“ジャパニメーション”の先駆けとなる。今年に入ってから「999」の第2部が『ビッグコミックゴールド』で、ワーグナーの超大作オペラを宇宙におきかえて描く『ニーベルングの指環』4部作をインターネット上で連載開始するなど、その活動と注目度はまだまだ衰えを知らない。また、日本宇宙少年団理事長、宇宙開発事業団参与も勤める。



Photo:高倉 永佳



JAMES ROCCO

ジェームス・ロッコ●演出・振付

作品もプロジェクトも、インターナショナル

ジェームス・ロッコ（以下J）：僕は原作を知らなかったので、最初に「コミックをミュージカルにしたい」という話を聞いた時は、実は単なる好奇心を感じただけだったんです。でも資料として借りたアニメを見終わって、とても創造意欲をくすぐられたんです。いつも自分がステージでやっているのとは違う、まったく新しいものを手がけるチャンスだって思った。非常にファンタスティックでリミットが感じられない作品だったので、これをステージでやったらどうなるのだろうと想像してすごく興奮しました。

都倉俊一（以下T）：アニメというのは日本が世界に誇れる数少ないエンターテインメントのひとつだと思うんです。アメリカでも大きなビデオショップに行くと、アニメのベスト10に日本の作品が8本くらい入っていますよね。ハリウッドのように映画にお金をかけられない分、日本人は想像力を使ってアニメをつくっていると考えていいんだと思います。だからアニメにはミュージカルに必要な要素――大きなテーマとか味のあるキャラクターなんかが全部入っているんですよ。僕はこの舞台の企画の段階から関わってきたので原作の候補も探したんですけれど、そうした要素を日本の小説や映画に見つけるのは、なかなか難しかった。オリジナルミュージカルをつくる場合、とにかく素材が一番大切ですからね。

J：それに「999」はインターナショナルだから。

T：そう、まったく無国籍な作品でしょう。鉄郎は日本人だけど、メーテルがどこの国の人かなんて誰にもわからないでしょ。僕もジェーミーも、この作品を英語圏に持っていきたいと考えているから、誰が演じてもいいという題材はありがたい。

J：プロジェクトとしてインターナショナルというのも素晴らしいですよ。世界中の国のアーティストが関わっているんです。美術や通訳、プロデューサー、みんな違う場所から来ている。それなのに創造性のインパルスや方法は同じなんです。僕が東京で仕事をする醍醐味のひとつに、コミュニケーションのチャレンジという要素があるんです。僕は芸術を通してのコミュニケーションにとても興味を持っている。そして東京はその方法を探究できる場所のひとつなんです。僕は日本語が話せないから、さまざまなコミュニケーションの仕方を考えなくてはいけないしね。・・・シュンとは問題ないけど。

T：僕はちょっと大変かな（笑）。

J：そんなことないでしょう？　本当に？

T：だって君のジョークを訳すのは、時に大変なこともあるんだから（笑）。それはともかく、お互いにシアターでいろんな経験をしてきているし、ちょっと打ち合わせしただけで相手の考えがわかるのはいいことですよね。僕の仕事は基本的に部屋の中で作品をつくって演出家に渡すことだから、それをどう表現するかはジェーミーにかかってくる。僕は君の作品をいろいろ見ていて、才能と経験の素晴らしさを知っているからね、今回も大いに期待しているんです。



J：僕はシュンに自分を過小評価して欲しくありません。自分が曲を書いて僕に渡すだけなんて、君があんなに素晴しい

クリエーターズ対談
ジェームス・ロッコ×

リミットのない「999」の世界を、究極のエンターテイ

メロディーを書いてくれたからこそ、作品の解釈の糸口を見つけられたことだってあるんです。それに会う前から、僕は君の曲をたくさん知っていたんですよ。しかも興味を持って聞いていた。そして会ってみて、2人に似通ったインパルスがあることを確認したんですからね。

これほど「やった!」と思える仕事はない

T:今回、原作があるとはいっても、そのままではミュージカルにはならないでしょう。ディズニーとの大きな違いはそこにあって「美女と野獣」なんかは最初からミュージカルをつくるつもりでアニメがある。他のディズニー作品もミュージカルを前提につくられているでしょ?でも「銀河鉄道999」はそうじゃないから、ミュージカルにする場合、アニメとは完全に違うものをつくる気構えがないとだめなんですよ。僕は今、役者じゃなくて本当によかったって思っています(笑)。お客さんはアニメを見ている人が多いから、それをどのように実際の人間がやるのかに興味津々のはずだと思うんです。



J:その点なら、シュンは2年、僕は1年、このプロジェクトに関わってきて、すごく集中して取り組むことができましたよね。

T:ええ。これまでの経験があるし、それに加えて今回の舞台を手がけることで、僕たち自身の経験がさらに発展することは、間違いないと思っています。ところで君は演出家であり振付家でもあるけれど、歌も歌っていたでしょう。僕はこんなに歌のうまい演出家と仕事をした経験は初めてですよ。これはとても大切なことなんです。歌がうまい人がいると僕の音楽にエネルギーが加わるから。

J:確かに歌は好きです。僕の人生は音楽一色といってもいい。いつでも音楽が聞こえているし、音楽を信じているし、音楽が僕の人生哲学なんです。行動のあらゆるものに音楽が結び付いているから、自分にとって最も明確で、最も自然な表現方法が音楽だといえると思いますね。私は音楽を正真正銘のコミュニケーション手段だと捉えています。

T:まったく同感ですね。そして僕が思うに、ミュージカルというのは音楽を使った究極のエンターテインメントなんです。普通の演劇だったら役者に求められるのは主に演技でしょう。そしてオペラには踊りがない、バレエには歌がない。でもミュージカルは歌、踊り、演技ができる究極の表現方法なんですよ。また究極のチームワークともいえます。めぐり会いの妙というもので、照明やコスチューム、セットも含めて完成するものだから、才能のある人達が揃わないと実現しない。幕が開いて、降りて、観客の拍手が聞こえた時点でこれほど強く「やった!」と思えるものは、そんなにないと思うんです。

J:僕ら、幕開け直前には完全にバテているでしょうね。お客さんがエキサイトしている時こそ、僕らの休息時間だ(笑)。でもシュンがいったように、拍手が聞こえた瞬間に、すべての苦労が報われて幸せにひたることができる。ただ、その瞬間が来るまでは「2度と演出なんかやるもんか!」って思ってるんですけどね(笑)。

シュン・トクラ

ンメント、ミュージカルで形にする



シュン・トクラ●作曲、アーティスティック・スーパーバイザー

SHUN TOKURA

—1幕—

M-0　「オーバーチュア」／Overture

M-1　「GX999のテーマ」／GX999 Theme

M-1A　ビフォー「トゥギャザー」／BeforeTogether

M-2　「トゥギャザー」／Together

TOGETHER 二人の夜が明けて
TOGETHER 輝く空 見えたら
歩き続けて求めた場所 遠くない
泣きたいのは 生きている証（あかし）

TOGETHER 暗い雪の夜には
かすかな希望の灯もまぶしい
雪が消えたら 花のつぼみ きっとある
勇気出して 男の子でしょう？

いつも歌ってくれたお父さん
あなた忘れはしないでしょう
懐かしい愛の歌 聞こえるよう
次の曲がり角 曲った時にきっと
見える姿 夢じゃなくて
生きている・・・と信じてる

TOGETHER 体凍えてるのに
こんなに二人の息は熱い
夢をかなえる汽車の駅は あと少し
歩き出して 男の子でしょう？
愛が照らす道があるかぎり

M-2A　「機械伯爵登場」／Mekka's Entrance

M-3　「ヒーローになる日」／A Hero's Life

M-4　「メーテル誘拐」／The Abduction Of Maytel

M-4A　「家の中へ」／Into The House

M-4B　「戦士の銃」／Tochiro's Gun

M-5　「リメンバー」／Remember

M-6　「鎧の騎士」／Count Of Armor

M-6A　「列車に戻れ」／Back To The Ship

M-6B　「ロケット」／The Locket

M-6C　「鏡の中の私」／Vision Of Me

鏡の中で揺れてる セピア色に映る影
見覚えある姿は 幼い日の私なの

母親の願うまま 期待通り生きてきた

描かれた姿だけ 求めてきたけど
今でも探してる 自分の生き方を
ひとつずつ消えてゆく 夜明けの星のよう
自分の夢 どこに？
本当の私は誰？

星降る空に願いを かけたのは 秘密だった
叱られるのが恐くて 破り棄てた手紙もある

母親の言う通り 喜んでほしいから

振り返ることもなく 歩いてきたけど
今でも探してる 自分の生き方を
これ以上 旅しても 巡り逢う あてのない
自分の夢 どこに？
本当の私は誰？

M-7　「銀河の果てまで」／Love Becoming Real

旅に終わりはないわ
果てしない永遠（とわ）の夢をめざして
蒼く透きとおったガラスの星の世界
流れる光に願いをかけて生きてきた

そして銀河の果てまで歩きたい
愛する人と二人で
優しさに抱かれていたいだけなの
本当の愛までたどり着くの
いつかきっと・・・めぐり逢いたい

幾千の夢たちが見守ってくれるのね・・・そうよ！
何万年もの時間（とき）飛び越え見つめてる
またたく光に未来映して 信じてる
ガラスの向こうに明日が生まれる
愛する人と二人で
ぬくもりをこの手で受け止めたいわ
未来を築いていつまでも・・・そばにいてね！
Till the day I find my love

そして銀河の果てまで歩きたい
愛する人と二人で
心の星 胸に抱いてゆくわ
本当の自分にたどり着くの
いつかきっと・・・
Till the day my dreams come true

M-8　「ハイジャック」／The Hijack

M-8A　「ハーロック退場」／Harlock Departs

M-9　「フレンズ」／Friends

生意気ざかりさ
世の中をナメたヤツ
こわいものがない
今にケガするぜ
でもなあ・・・
どこかが似てる
忘れていたけど
あの日のオレたちを
鏡で見るよう

オレたち　二人で

あの子を鍛えよう
吠えるライオンなら
谷に突き落とす
自分の力で
オレたち乗り越えて行け
涙の苦さは　忘れないだろう

思い出話と
笑える日も来る

時が過ぎて振り返る
オレたち何をしたのか
これでいいと言うほど
老いぼれちゃいないはずさ

敵は今でも消えない
倒し続けてきたのに
残された年月が
許す限り戦おう

巣立ちたてのイーグル
夢を追いかけろ
はばたき続けて
オレたちを やがていつかは
飛び越えて行け

M-9A　「冥王星」／Pluto

M-10　「シャドウのダンス」／Shadow's Dance

M-11　「ザ・ギフト」（1幕のフィナーレ）／The Gift

もう手遅れかもしれないけど
でも 他の子と違う
戻してあげたい

いつまでもあなた
そばにいてほしい
とても心配なの
壊れそうな　My Heart

一度こうと決めたら
悔やんだって　遅すぎる
命も惜しくない
旅に出たあの日に
誓ったんだ　やり通す

今さら戻れない

戦うあなた 止めてあげたい
大事なものは 何か気づいて

オレ一人だから 止めないでくれよ
燃えたぎる心 失いたくない

一度 こうと決めても
時には引き返す
勇気もあるはず

命を捨てないで
一人のものじゃない
勇気があるなら

愛することは?
──戦うだけさ
足りないものは?
──何もいらない

愛することは
──戦うこと
宇宙より広い
──あきらめずに
心の旅だと
──どこまでも
いつか気づいたら
──もう戻れない
導く愛と
共に旅立とう

―2幕―

M-12 「2幕 オープニング」／Entr'acte

M-13 「ヒート」／Heat

M-13A 「バックグラウンド」／Biker Background

M-14 「ザ・ファイト」／The Fight

M-15B 「ザ・チェイス」／The Chase

M-16 「消えてゆくけれど」／I Will Leave This Life Believing

M-17 「出発を遅らせます!」／We're Late!

M-18 「タッチ」／Touch

傷つくことのない 夜空に光るクリスタル
未来は 夢見るだけじゃない
信じあえるなら 素肌で感じよう

With a touch and a kiss
初めての予感 震えてるの
胸の奥 熱い・・・

探していたものは
きみの中にある
ふたりで見つけよう

あ・た・し
瞳閉じたまま 待ってる
やがて 花開く時が来るの
触れあう こころと こころと ひとつ

With a touch and a kiss
初めての奇跡
何もせずに 抱きしめていよう・・・

With a touch and a kiss
もぎたての恋は
陽射し浴びて 色づいてゆくよ（ゆくの）
少しずつ
素肌で
確かめ合おうよ
感じるの! 今も!

Touch and kiss
本当の気持ちのままで
いつか輝ける場所があったら
きっとある
見えない
何かが見えるよ
こころと こころと
ひとつになる
いつか

M-20 「エンパイア」／Empire

M-20B 「GX999のテーマ(リプリース)」／GX999 Theme (Reprise)

M-21 「あなたを見てるから」／Watching Over You

別れのベル 呼んでいるわ
また遥かな 空へ帰る

二人で旅した日
思い出してくれるなら
夜空を見上げ 探して
ひとつ星
離れてても
あなたのこと 見てるから

M-22 「ジャーニー／鉄郎のアンセム」／Journey

長い旅は今日で
終わりと言えるのか
何かが 崩れて行く
戦い続けた日 教えてくれたよ
出会いと別れのあとで
残るものは 何かを

せめて星が消えるまでは
思い出を抱きしめていよう
再び会える場所へ
道は続く 明日も

限りある命の花は
永遠（とわ）に旅する人のために

長い旅のあとも
消えないものだって
あるでしょう?
おぼえていて

出会いと別れとは
背中あわせだよ

新しい旅で
いつか出会う人を

愛して

男なら 前を見ろよ
また勇気よみがえるだろう

ふたたび会える場所へ

続く道が見えるだろう

限りある命の花は
永遠（とわ）の旅人のために咲く

またいつか会える場所へ
この道は続く 明日も

命 讃えて咲く花は
愛をくれた キミに 捧げよう

■作曲 シュン・トクラ／Shun Tokura
■作詞 ダグラス・A.ブレイフィールド／Douglas A.Brayfield
■訳詞 松田直行
Haruka「銀河の果てまで」

世界が見た「999」と松本零士。

J'taime Ginga Tetsudo 999

J'taime Ginga Tetsudo 999

フィリップ・ブロフィ

松本零士の「銀河鉄道999」が揺さぶる世界観、と、その魅力について‥‥。

日本のアニメーションが西洋社会でポピュラーな存在になり、広くその魅力と実力を認められている一方で、残念ながら漫画、それ自体はそれと同等の評価を受けてはいません。印刷経費、普及の方法、マーケットの問題などから、それはリスクの大きいビジネスであり、残念なことに、いまだ西欧社会では普及していないのが現状です。日本独特のストーリー文化とイメージ創作について知ろうとする西洋人にとってこれは、最も不幸なことと言えます。むろん日本の漫画作家たちは読者を世界に求めたいだろうし、また、そういったインターナショナル性を持つ作家も実に多いのですから。

松本零士こそ、まさにその代表格というべき作家だと思います。ひとりの浪人学生の、まるで人生をナナメに見下ろすような観察眼が秀逸だった「男おいどん」、「戦場」シリーズにおける南太平洋で繰り広げられる兵士同志の局地戦、そして、「キャプテン・ハーロック」「千年女王」「銀河鉄道999」らに共通して流れている濃厚なロマンティシズム‥‥。彼は、広範囲に題材を手掛け、さまざまなジャンルに挑んでいるのですが、そのすべてが完成度が高く、すべてが非常に個性的な作品に仕上がっているところに大変な感銘を受けました。

70年代後半のアメリカでは、松本零士の作品に基づくアニメシリーズがテレビで大ヒットしました。それらの吹き替え版は、私自身の印象では、松本零士の作家性のすべてを描くには力量不足の感が否めませんでした。が、「キャプテン・ハーロック」「スター・ブレーザース」（宇宙戦艦ヤマト）「フォース・ファイブ」（惑星ロボダンガードAとSF西遊記スタージンガーの短縮ミックス版）は、スターウォーズ世代の人間にとってはどうしようもなく甘美な思い出となっているのです。しかし、彼の本当の芸術性が理解できるのは、漫画作品はもちろん、映画化された諸作品「ヤマトよ永遠に」「わが青春のアルカディア」そして、りんたろう監督がその世界を美しく再現しえた「銀河鉄道999」「さよなら銀河鉄道999」につきると思います。

「銀河鉄道999」は、私にとって、松本零士作品中、最も悩殺され、夢中にさせられた作品でした。鉄郎少年の機械の身体を手に入れるための冒険物語は、静謐さ、優雅さを感じさせるメーテルの存在を織り込んで、まるで、宮沢賢治の「銀河鉄道の夜」のように信じられないほど美的なトーンに満ちているのです！（そのようなロマンは同様に手塚治虫の長編のいくつかの作品にも存在しますが‥‥）　もちろん「銀河鉄道999」の魅力はそのアクションやユーモラスな部分、にもあったりするのですが、私自身はこの物語が持つ、心がざわつくような究極の悲劇性に強く感じ入ってしまうのです。

「銀河鉄道999」のスペースオペラとしての魅力の核は、ドキドキするようなロマンスに加え、愛の喪失、家族の崩壊、人としてのさまざまな後悔の念に、読者のハートが否が応でも熱くさせられてしまうところにあります。運命的な存在であるメーテル、かなわぬ恋に苦しむクレア、自己忘却にからめ取られるリュウズ、魂を無くしたシャドウ、これらは作家のメカニカルな登場人物の枠を超えて、読者をとりこにし、霊感を与えてくれる存在です。純粋な人間主義と不完全な機械達、というのが、松本零士の表現世界全体に常に存在するものなのです。

多くの西洋人にとっては、「銀河鉄道999」の最初のインパクトは、未来テクノロジーと第二次世界大戦の兵器や風俗の風変わりなミックスにあるのではないでしょうか。イタリアや帝政ロシアのコスチュームが登場し、あるところは「ドクトル・ジバゴ」、またあるところは「メトロポリス」といったように。このような、ユニークな組み合わせの発想というのは、日本の文化が持つとても力強くて魅力的なところで、西洋の文化ではなかなか産みだし得ない表現だと思います。松本零士の作品ではこのような文化のブレンドは、エモーショナルかつドラマチックに解体、統合されていきます。それはまるで作者自身の核心的なビジョンそのもののように思えるのです。

漫画としてまた映画として、その他のいかなる表現となっても「銀河鉄道999」は、世界のあらゆる人々にアピールする力をもった作品でしょう。それだけでなく、トランスナショナルな文化とレトロフューチャーなイメージが力強く合わさった、ポストモダン的な表現としても興味深いものです。現在、西洋社会は、この作品のようにさまざまな個性がミックスし共存しうる世界へのアプローチというものに本気で取り組もうともがいている矢先で、彼の作品にはそのヒントがあるような気がします。

松本零士と「銀河鉄道999」は、日本のカルチャースタイルとともに、世界中の人々にその作品の魅力を知らしめるべき表現であり、心ある読者たちによって真に尊敬を受けるべき存在であると、私は確信します。

フィリップ・ブロフィ
Philip Brophy
オーストラリア、メルボルン在住の映画監督、作曲家、プロデューサーかつポップカルチャーの評論家。日本のアニメ、漫画に造詣が深く、メルボルン・フィルム・フェスティバルでは、手塚治虫の回顧展のキューレーターを勤めた。

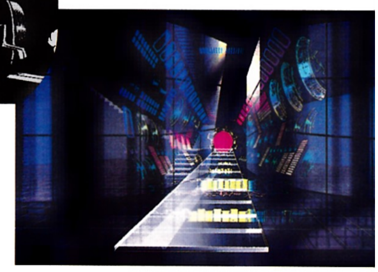


母親

機械人間の開発に尽力した夫が宇宙実験室での事故のあと行方不明になり、女手ひとつで鉄郎を育てる。メガロポリスから999に乗りこもうとする旅の途中に人間狩りにあって、撃たれ、機械伯爵の最も美しいコレクションと化す。





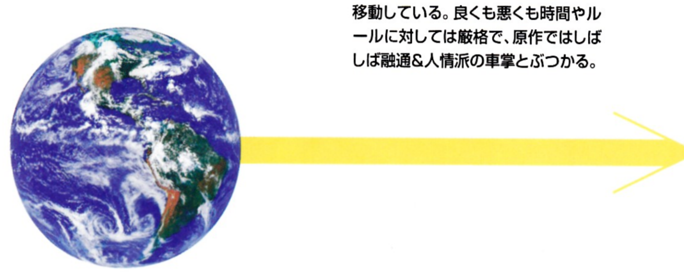


銀河鉄道999大航海記

母の復讐に燃え、その信念を貫き通そうとする鉄郎と、彼を支えながらも母の呪縛から逃れられず苦悩するメーテルは、銀河鉄道999が立ち寄るさまざまな寄港地で試練を受け、自分を発見し、魂の成長をとげるのだった。銀河鉄道999の旅はそのまま、人の時間と人生の物語に重なっていく。そして、そのリズミカルな振動は、愛と勇気を高らかにうたいあげる。

銀河鉄道999

銀河鉄道株式会社が誇る宇宙間長距離列車。外観はかつて地球を元気よく走っていたSLそっくり。人間のように自ら状況判断し、自分の考えに従って移動している。良くも悪くも時間やルールに対しては厳格で、原作ではしばしば融通&人情派の車掌とぶつかる。



地球メガロポリスステーション

人工物に被われ、一年中気温が調節され快適な"楽園"、メガロポリスであるが、機械人間がイニシアチブをとり、人間は虐げられている。



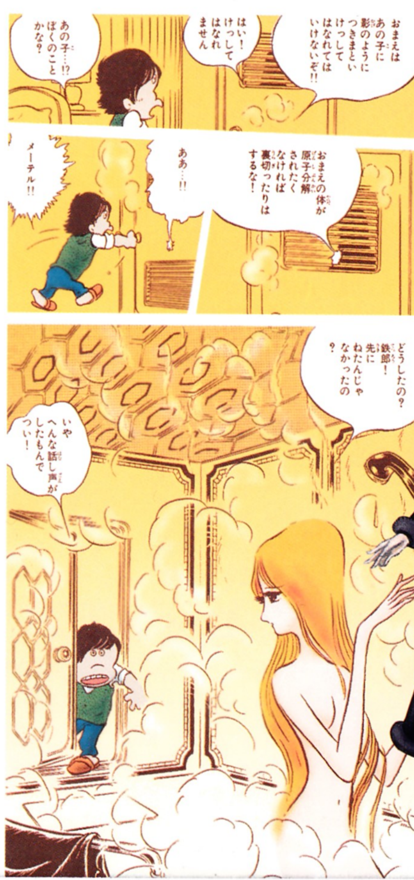
星野鉄郎

母を機械伯爵に殺され、その復讐のために機械の身体を求めて、謎の美女メーテルと一緒に宇宙の旅に出た地球生まれの少年。好奇心と探求心にあふれ、さまざまな出会いと過酷な体験を通して、真の勇気と愛を知り成長していく。星野鉄郎の星野はStarのField、鉄郎は鉄路=Rail-way。この作品に込められたテーマを切り開き、実現する意志と勇気を持つ主人公だ。ちなみに原作では、ステーキとラーメン好きで、大の風呂嫌いというキャラクター付けがなされている。



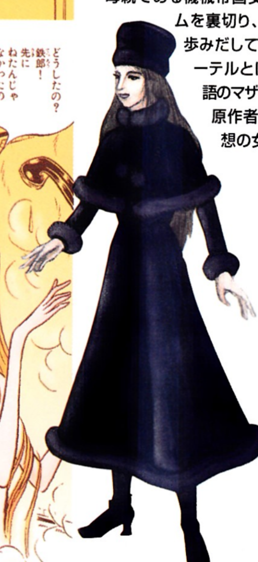
鉄郎、あなたは人に愛されたの。それがどんなことか、わかる？





メーテル

鉄郎とともに宇宙の旅を続ける美しい謎の女性。常に鉄郎を危険から守る存在であるが、その正体は機械帝国である惑星メーテルのプリンセス。彼女はその部品にふさわしい少年を誘い招く使命を帯びていたのだった。終わりのない"時の輪"を永遠に巡り、星々のあらゆる事象を知り尽くし、慈愛と悲しみをもって見つめる女神のような超自然的な存在。苦悩の末、最後には母親である機械帝国女王プロメシウムを裏切り、新たなる道を歩みだしていく。なお、メーテルとは、古代ラテン語のマザーに語源を発し、原作者松本零士の理想の女性像、なのだ。



セットデザイン:森安 淳
衣裳デザイン:前田文子



クレア

銀河鉄道999のウェイトレス。その美しいクリスタルの機械の身体は、どうやら見栄っ張りの母の意向だったらしいが、それを嫌い、本当の気持ちを感じることができる生身の身体を買い戻そうとしている。鉄郎と恋に落ち、彼のために自らを犠牲にする。

シャドウ

冥王星の氷の墓場の管理人。自らも機械の身体であり、自分の生身の肉体もそこにある。永遠の命を選択しながらも、生身の人間の暖かさにもひかれ、鉄郎にそばにいてほしいと引き止める。







老婆

暴漢に襲われ気絶した鉄郎を助ける。機械伯爵を滅ぼそうと家を飛び出して行ったまま帰ってこない息子を待ち続けている。鉄郎にその形見であるマントと帽子と手作りの＜戦士の銃＞を渡す。





土星の衛星タイタン

太陽系で2番目に大きい＜月＞。この星の＜楽園法＞は、徹底的に自由を追求した法。何をしても自由。逆にそれを妨げれば、罪になる。殺人さえも・・・。



鉄郎が老婆からもらった、3つの贈り物。
土星の光から身体を守るマントと帽子、
戦士の銃。

冥王星／氷の墓場

機械の身体になった人の元の身体が、
保存され眠る氷の墓場がある。

車掌

銀河鉄道999ができた時から車掌を勤める、任務に忠実かつ律儀な人物。完全なスケジュール通りに運行する999の時間厳守にこだわるが、事情によっては、"自分の決断"において、融通を利かせる場合もアリ。少々気は小さいが、この仕事に誇りを持つ人情家である。

鉄郎、あなたはどれほど幸せなのか、
気付いていないだけよ。

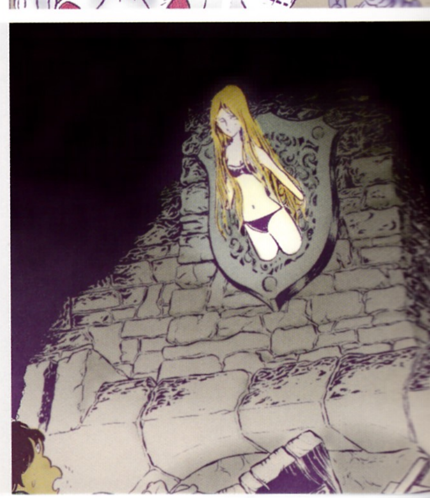




●ストーリー　＜一幕＞

地球は永遠の命を持つ機械人間に支配されていた。強靱な機械の身体も永遠の命も持たない人間は、＜人間狩り＞の獲物として、みじめな生活を送っていた。少年ストリートギャングのひとり星野鉄郎は、母を残虐な機械伯爵の手によって殺され、その復讐のためにアンドロメダに行って機械の身体を手に入れようと考えていた。ある時、母に生き写しのメーテルと名乗る謎の美女に出会い、彼女のボディーガードになることと引き替えに銀河鉄道999に乗り、アンドロメダに行けることになる。

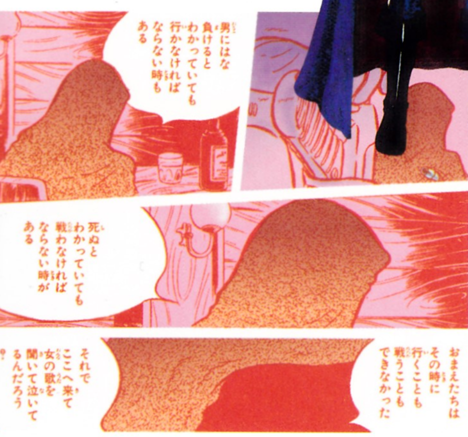
乗組員は車掌、そして、ウェイトレスはクリスタルの身体を持つ少女クレアだった。999は最初の寄港地、土星の衛星タイタンへ。暴漢に襲われた鉄郎はひとりの老婆に助けられ、息子の形見だという戦士の銃などを譲り受ける。その銃でメーテルを救出し、999に逃げ込む。クレアと語り合い、お互いにほのかな想いを感じるのもつかの間、キャプテン・ハーロックの海賊船が近くを通過し、鉄郎は憧れの宇宙海賊と念願の会見を果たす。機械伯爵の居所を彼に尋ねるが、彼は答えてはくれない。999は一路、冥王星へ。機械になった人の元の身体が眠る氷の墓場では、シャドウという管理人に引き止められるが、クレアに助けられる。そして次の停車場に向かう途中、機械伯爵の＜時間城＞もそこに向かっていることを車掌から告げられるのだった。



トチロー
志半ばで病に倒れたものの、その魂は宇宙海賊船のエンジンとして生き続けている存在。実は鉄郎にマントと帽子と銃を託したタイタンの老婆の息子であることがわかる。ハーロックの無二の親友であり、重要な相談相手。

キャプテン・ハーロック
地球を捨てて、宇宙の大海原に旅立ち、自由と希望のフロンティアを求めて闘う宇宙海賊。同志とともに、たくさんの命と惑星の危機を救ってきた。鉄郎の心意気に感じ、彼を助け機械人間たちと熱血ファイトを展開する。





「派手な喧嘩に勝る薬はない」ってね。

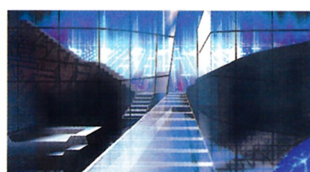
それでいい、メーテル。大切なのは、常に問い続けることだ。

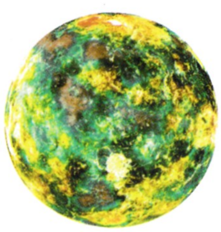


ドクター蛮
メーテルの父。機械帝国に反乱を企て、カプセルに閉じこめられた魂だけの存在にされてしまった。メーテルの首にかけられたロケットを通じて、彼女を助け導き、最後には自爆して機械帝国を滅ぼす。

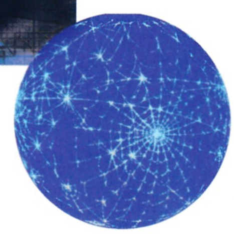
プロメシウム
メーテルの母で、惑星メーテルの機械帝国の女王。もとは心優しく聡明な女性であったが、永遠の命を追い求めるあまり、機械化の帝国を築く。メーテルに多くの少年たちを連れてくることを命じ、彼らを帝国の部品にし、人間の命を燃料にするという非道を重ねてきたが、鉄郎、メーテルたちの力によって破滅する。







トレーダー・ジャンクション



惑星メーテル

女王プロメシウムが統治する機械帝国の星。そして・・・

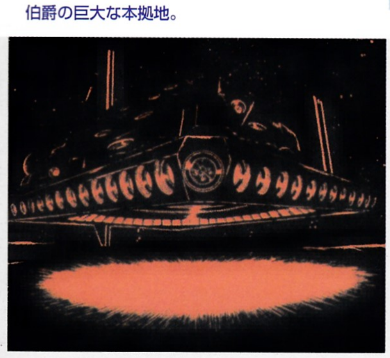
夢がかなったのに、それはゴールじゃなくて、スタートだった。



機械伯爵
<時間城>に住み、生身の肉体を機械にする大コンツェルンの社長であり、機械帝国の女王プロメシウムに仕える軍人でもある。人間を欺き、アンドロイド化し、抜き取った心を女王の所に送って、機械帝国を支え維持するエネルギーとして供給している。きれいな人間の身体をインテリアにする超悪趣味なヤカラだ。

リュウズ
<時間城>の航海士であり、時間航行をナビゲートする。機械伯爵の愛人であるが、生身の身体に憧れている暖かい心の女性。さまざまな時代の酒場を訪ねて得意の歌を歌い、さまざまな人間模様を見てきている。機械伯爵を裏切り、鉄郎に人間の未来が込められた花の種を探すことを託し、銃弾に倒れる。

機械伯爵の時間城
時間を超えて旅のできる、機械伯爵の巨大な本拠地。



●ストーリー　<二幕>

トレーダー・ジャンクションの酒場では、機械人間と機械伯爵の家来たちが飲み騒いでいる。その中の歌姫リュウズは、時間城のパイロットだった。機械人間たちに放り出され、怒って反撃に出た鉄郎の前に、突然ハーロックが現れ、大立ち回りに加勢する。リュウズを追い時間城内に潜入した鉄郎は、ついに機械伯爵本人と対決することとなった。正々堂々と戦おうとする鉄郎に対して、時間を進めて逃げ出そうとする伯爵だったが、リュウズの心変わりによって、時間城とともに破滅してしまう。

999は次の目的地、惑星メーテルに向かうが、メーテルは目的を果たした鉄郎に地球に戻ることを勧める。しかし、旅の最後までメーテルを守ろうとする鉄郎はそれを拒み、惑星メーテルに同行する。しかし、到着するやいなや、鉄郎は捕らえられてしまう。メーテルはここ機械帝国の女王プロメシウムの娘であり、帝国の部品となる少年を連れてくる使命を帯びていたのだ。だが、メーテルは母に背き、メーテルが付けているロケットの中に魂として存在している父は、自らの意志によって自爆し、機械帝国を滅ぼす。怨念となったプロメシウムは鉄郎を襲おうとするが、クレアは身を呈して彼をかばって死ぬ。しかし残されたクレアのクリスタルの心臓の中には、すべての生物の遺伝子を埋め込んだ花の種が存在していた。

メガロポリスに戻った鉄郎とメーテルは、それぞれお互いの道を歩み始めていくのだった。

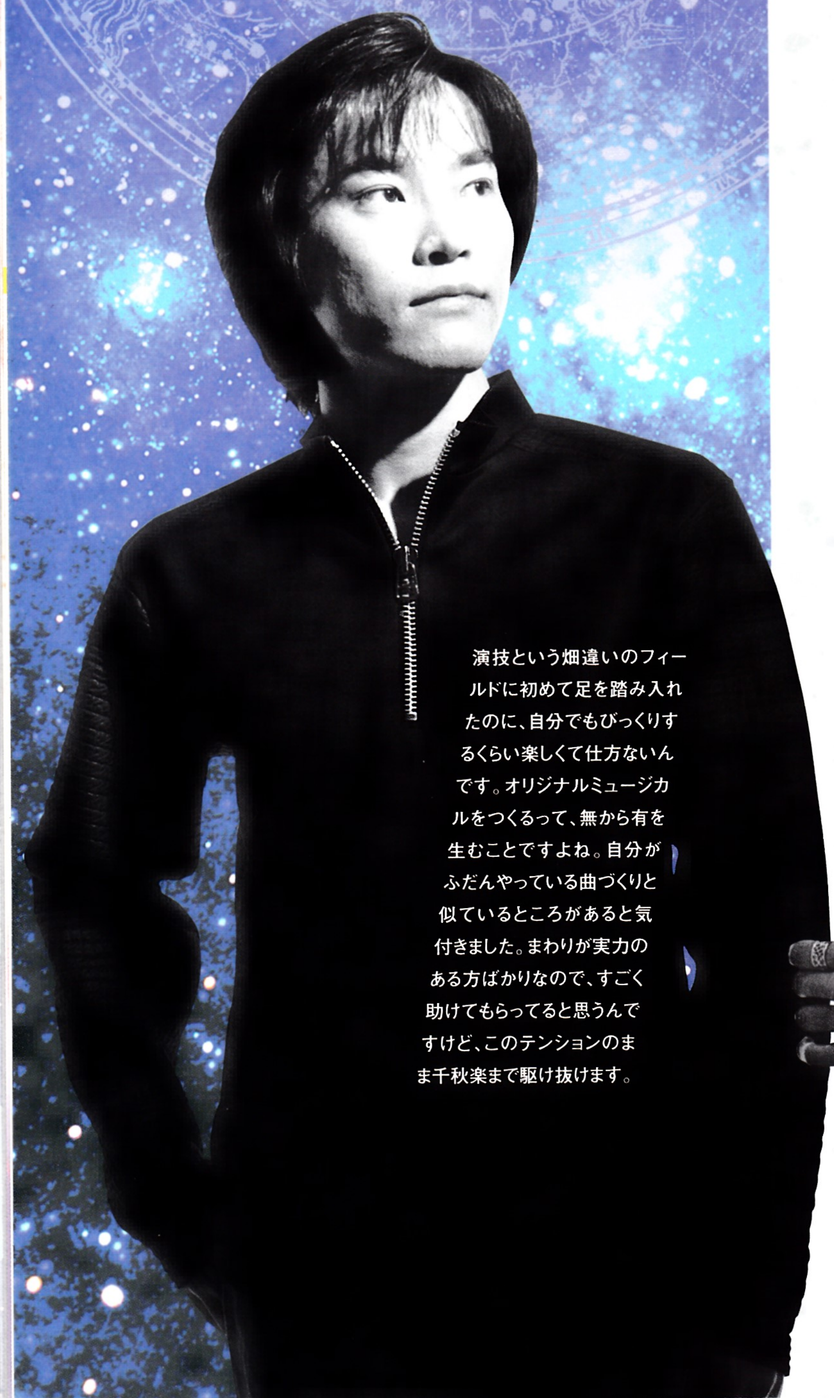
セットデザイン：森安　淳
衣裳デザイン：前田文子

SYUJI HONDA

本田 修司

（星野鉄郎）

1972年5月1日生まれ。山口県徳山市出身。B型。高校生の時、世のバンドブームに刺激され初めてバンドを組む。その後、大学進学のため音楽活動の拠点を広島から福岡へ移す。'93年ヤマハ主催のコンテスト「The 2nd Music QUEST」に出場、日本大会でグランプリを受賞する。'95年5月シングル「ふたりの場所」でデビュー以来、シングル6枚、アルバム2枚をリリース。また、ライブ活動も積極的に行い、これまでに全国で200本以上ものライブを展開している。



演技という畑違いのフィールドに初めて足を踏み入れたのに、自分でもびっくりするくらい楽しくて仕方ないんです。オリジナルミュージカルをつくるって、無から有を生むことですよね。自分がふだんやっている曲づくりと似ているところがあると気付きました。まわりが実力のある方ばかりなので、すごく助けてもらってると思うんですけど、このテンションのまま千秋楽まで駆け抜けます。

MIZUKI OURA

大浦 みずき

（メーテル）

元宝塚歌劇団花組トップスター。在団中は、そのシャープなダンスとスケールの大きさで活躍。中南米他、数々の海外公演に参加し、ニューヨークのラジオシティ・ミュージックホールでもトップを務める。'91年に退団後は、ブロードウェイ・ミュージカル「シーソー」「リトル・ミー」等に主演する他、「女中たち」「花粉熱」等のストレート・プレイでも魅力を発揮。抜群のダンスセンスを生かしたショウ作品には「ドラマティック・リサイタル／ルナ・ロッサ」「ジェリーズ・ガールズ」「THE　翔　SHOW」等がある。今年はタンゴ歌手としてもライブ・デビュー。軽妙なエッセイにも定評があり、現在『ソワレ』に「と・て・ち・て・た」を連載中。



メーテルと、鉄郎のお母さんの2役を演じています。どちらも鉄郎にとって、そして物語全体にとっても影響力のある女性なので、その大きさをどう出すかが課題です。それと鉄郎がメーテルにひと目でついて行きたくなるような謎めいた雰囲気も出したい。そして、最終的に作品自身の持つ力をお客様に伝えられたら最高ですね。

SUSIE KANG

スージー・カン

（クレア）

1971年、韓国ソウル生まれ。8歳から18歳までニューヨークで育つ。'90年韓国に戻ってCDデビュー。デビューアルバムの「ボラビッヒャンギ」で一躍スターに。その後、今までに8枚のオリジナルアルバムと2枚のベストアルバムを発売する。その歌唱力とはかなげな美しさで韓国の数ある音楽賞を総なめにし、韓国の代表的な女性シンガーとして活躍中。'95年日本でCDデビュー。今回の「GALAXY EXPRESS 999」ではオーディションを受け、クレア役を射止める。このミュージカルに加え、今年は、ミュージカルの楽曲からシングルカットしたCD「銀河の果てまで」、写真集「Juliet」が10月に同時発売されている。



初めてのお芝居、初めてのミュージカル、ひとりだけの外国人キャスト・・・。言葉や演技の問題で、最初はずいぶん不安がありました。でも他のキャストやスタッフの皆さんの思いやりで、それも少しずつ解消されました。稽古場に行く前は毎日「どうしよう?」と思ったのが、着くと「おもしろい、楽しい」に変わっていく毎日で。お芝居は楽しいですね。私が出るシーン、どれも好きです。

KYOKO

杏子

（リュウズ）

1984年「BARBEE BOYS」のヴォーカルとしてデビュー。'90年には宮本亜門氏の演出によるミュージカル「マランドロ」に出演しミュージカル初出演ながら高い評価を受ける。'92年「BARBEE BOYS」解散。同年、「DISTANCIA～この胸の約束～」にてソロデビュー。'96年には、「劇団・新☆感線」いのうえひでのり氏演出によるD-LIVE「ROCK TO THE FUTURE」に出演。劇中バンド「ミレニアム・イヴ」のヴォーカリスト、そして地下組織のリーダー「Gayu」を好演。ソロデビューからシングル8枚、アルバム4枚をリリース。



とにかくリュウズになりきることに夢中です。彼女は、機械人間で確かにタフなんだけど、心のどこかに空洞がある女性。その点をなにげないニュアンスで出したいんです。だから今は100%、リュウズになりたい。私自身は、もし声も体力も最高の状態で機械人間になれるといわれても断りますね。老いは衰えでもあるけど、内面の深みも増す。そんな二面性が人間のよさだと思いますから。

HIROSHI MIYAKAWA

宮川 浩
(キャプテン・ハーロック)

駒沢大学法学部卒業。その確かな歌唱力が認められ「レ・ミゼラブル」には第一回公演から参加する。'94年度の再演の際にはマリウス役を演じて大好評を博す。その後「ミス・サイゴン」のクリス役をはじめ「回転木馬~CAROUSEL~」のビリー役など、大作ミュージカルで次々に大役を好演。近年はテレビドラマ等にも出演し人気を高めている。主な舞台作品は、この他「GANKUTU-OH」「アニーよ銃をとれ」などがある。昨年の舞台「蜘蛛女のキス」のヴァレンティン役ではその卓越した力が評価され若手舞台俳優としてその地位を確立している。



キャプテン・ハーロックは、今彼を好きな人が50歳になっても60歳になっても、ずっとその人の心の中に生き続けるヒーローだと思います。そんな役を演じるのはとってもこわいんですが、皆さんの夢をこわさないようにしながらも“僕のハーロック”をつくっていきたいですね。登場するシーンは少ないのですが、脇役にならないよう、彼の大きさと魅力を存分に出したいと思っています。

AKIRA TOMEMORI

留守 晃
(機械伯爵)

13歳から音楽に興味を持ち、作詞作曲を自ら手掛けながらバンド活動を始める。18歳の時に上條恒彦氏に師事。のち劇団ふるさときゃらばんと出逢い、「ザ・結婚」「兄んちゃん」中国公演等、数多くの作品に出演する。その後もバンド活動を続けていく中、東宝ミュージカル「ミス・サイゴン」トゥイ役に抜擢。その歌唱力を高く評価され、同じく東宝ミュージカル「レ・ミゼラブル」アンジョルラス役で出演。その他数多くのミュージカルに出演し、「洪水の前」'97年のミュージカル「HAIR'97」「セーラームーン」「GALAXY EXPRESS 999」に至るまで日々歌い続け日本全国を忙しく駆け廻っている。

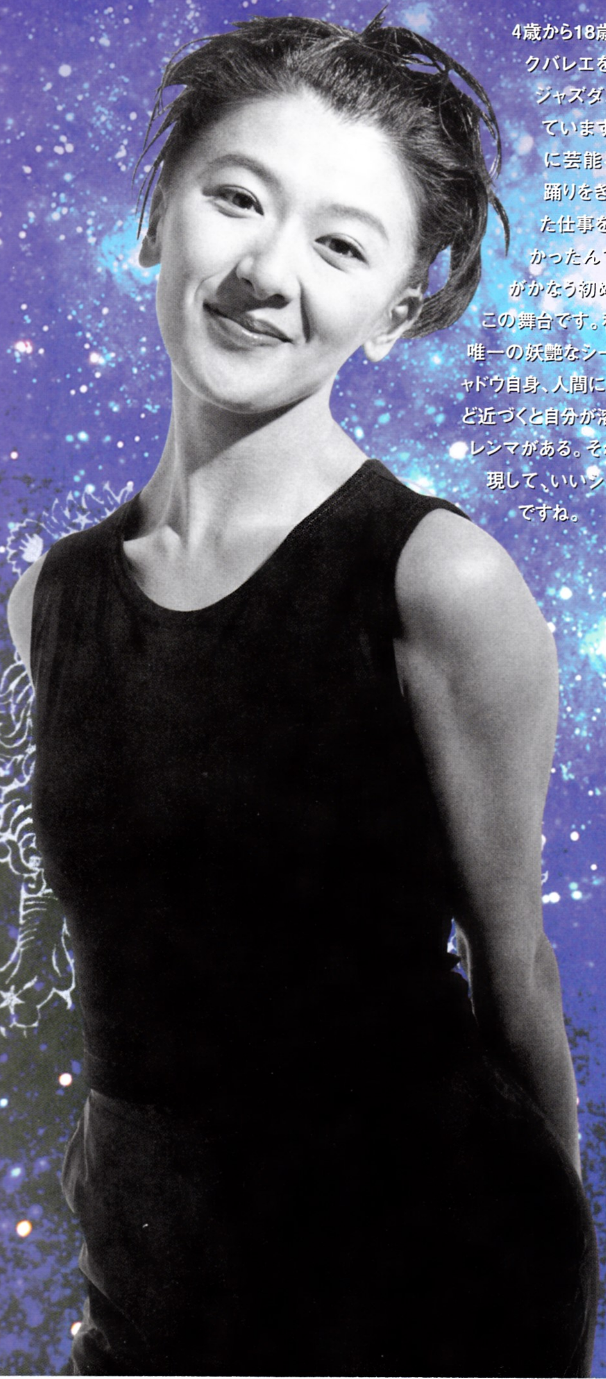
機械人間といえば、読者(皆様)にとっては「機械だから破壊してしまえ!」というキャラクターでしょ?でも、それを舞台の上で生身の人間が演じるとなると、どうしてもどこかに人間ぽさが顔を出してしまうんですよ。それを封じ込めて、彼の登場した瞬間にどれだけ機械の冷たさや、伯爵の冷血さが演じられるか。今迄にないキャラクターへの挑戦にハイオクガソリン満タンです。



KAORI TORII

鳥居 かほり
(シャドウ)

1965年3月13日、鎌倉生まれ。4歳からクラシックバレエを始める。'84年19歳で芸能界デビュー。「連想ゲーム」(NHK)、ドラマ「女は男をどう変える」(フジテレビ)、「代議士の妻たち」(TBS)等、ドラマ、バラエティに幅広く活躍。ミュージカルは'87年「アニー」に出演。'88年結婚後、芸能活動を一時休止するが、'95年情報番組「フレッシュ」(TBS)の司会で復帰。'97年名前を本名から鳥居かほりに戻し、女優、タレントとマルチに活動。また、ジャズダンスは名倉加代子氏に師事。定期公演にも出演している。



4歳から18歳までクラシックバレエを、8年前からジャズダンスを勉強していますが、13年前に芸能界に入って、踊りをきちんと生かした仕事をしたことがなかったんです。その夢がかなう初めての仕事がこの舞台です。私が踊るのは唯一の妖艶なシーンですし、シャドウ自身、人間に近づきたいけど近づくと自分が溶けてしまうジレンマがある。それを踊りで表現して、いいシーンにしたいですね。

ROCK MITANI

三谷 六九
(車掌)

1976年新劇の大衆化をめざし、なお且つ、マンネリの防止のため、活動期間限定という異色集団＜芸能座＞に入団。主宰の小沢昭一氏の付き人を経験。その年、「ワイワイ天皇正統記」で初舞台。その後、「落語無頼」(早野寿郎演出)「さよなら狂送曲」(小沢昭一演出)等に出演。'80年めでたく予定通り劇団解散。この頃、村田大氏のダンスカンパニーに参加。その後、「アリスの菜の花飛行機」(紀伊國屋ホール)で演出家竹邑類氏と出会い、氏主宰のザ・スーパーカムパニー公演に参加。'93年から音楽座「とってもゴースト」にガイド役で客演。その他の主な舞台に「眠る街」「月食」「エニシングゴーズ」「魔女の宅急便」「草迷宮」などがある。



国籍不明のこの物語で、車掌はいわば日本のサラリーマンだと思います。会社を気にして列車の時間を守る、気弱な男。でも実はただひとり、すべてを知ってる人じゃないかとも思うんです。メーテルの目的もクレアの秘密も知ってて何もいわない。そのくせ、いざとなったら列車を遅らせる浪花節男。そんなところも含めて、見に来てくれたお父さん達に「おれみたいだな」と思ってもらえたら・・・。

RIKA SUGIMURA

杉村 理加
（プロメシウム／老婆）

横浜市出身。フェリス女子学院高校卒業後、早稲田大学を経て、1983年劇団テアトル・エコーに入団、現在に至る。「風ときまぐれ」「狂っているのは誰？」などの劇団公演に参加する一方、外部公演へも積極的に出演。主な出演作に「20世紀号に乗って」「アイ・ガット・マーマン」「サウンド・オブ・ミュージック」「シー・ラブズ・ミー」「レ・ミゼラブル」（テナルディエの妻役）などのミュージカルや「野田秀樹の虎」（東宝制作）、栗山民也演出「青空のある限り」「海の沸点」などがある。その他、ディズニー映画の吹き替えでも活躍中。最近では、初のソロコンサートを開いた。



プロメシウムは自分のしていることを善だと信じています。母としてもメーテルに愛情と信念をもって接している。物語の中では悪役ですが、そこをふまえて演じたいですね。また土星の老婆も演じるのですが、かたや怖い人、かたやいい人と、2つの母親像をひとつ作品の中でやれるのは幸せです。「え、同じ人なの?」と思われたらいいんですけど。

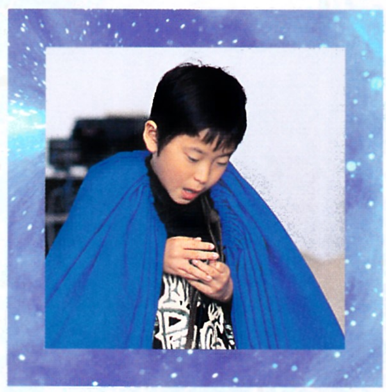


FUMINORI SATO

佐藤史紀

1985年1月27日生まれ。舞台は「王様と私」の出演から2度目となる。東京電力(CF)、アテレコなど幅広く活躍中。

稽古はずっと楽しかったです。特に僕は三谷六九さんの声が大好きで、じっくり聞いていられたのがうれしかった。お客さんの顔が見えると緊張するんですけど、それを忘れるくらい集中したいと思っています。



TAKANORI KUBO

久保孝典

1988年12月28日生まれ。主な舞台作品として、ミュージカル「回転木馬」「ミス・サイゴン」「ゆずり葉の井戸」等。

お芝居は好きです。特に学校を休めるのがいいです。「999」は、「ミス・サイゴン」で一緒になった人がいてなじみやすかった。オーディションの時にセリフをほめられたので、本番もうまくできるようにしたいです。



KAZUMA MINEMOTO

峯元一真

1989年12月2日生まれ。舞台は今回が初舞台。TV出演「金のたまご」(TBS)、映画「恋は舞い降りた。」

初めての舞台です。むずかしいのは、動きながらセリフをいうところ。楽しいのは、大人の人がいっぱい遊んでくれるところ。一番遊んでくれるのは杏子さんです。本番はドキドキするけど、頑張ります。

ドラム&パーカッション
江尻憲和
Norikazu Ejiri

バンドマスター／ベース
渡辺　建
Ken Watanabe

パーカッション
高良久美子
Kumiko Takara

キーボード1
八木淳太
Junta Yagi





キーボード3
中條純子
Junko Chujo

サックス、クラリネット
斉藤　清
Kiyoshi Saito

フレンチホルン
古田儀左エ門
Gizaemon Furuta

チェロ
橋本　歩
Ayumi Hashimoto

キーボード2
増田順一
Junichi Masuda

フレンチホルン
矢内寿彦
Toshihiko Yanai

パーカッション
村松和美
Kazumi Muramatsu

サックス、クラリネット
鈴木和雄
Kazuo Suzuki



阿部　裕 YUTAKA ABE

NHK大河ドラマ「吉宗」「グッドラック」「デッサン」等のTVドラマをはじめ、舞台では、坂東玉三郎公演等、双方で活躍。ミュージカルでは、「ブラッドブラザース」「魔女の宅急便」「キャバレー」等に出演。

全部を一からつくってきた作品なので、自分の持っているものを全部、できるだけ素直に出したいと思ってます。物語の設定は架空の世界ですけど、基本にある夢や希望は誰もが持っているものなので、それをお客さんと共有できたらうれしいですね。



幸　和希 KAZUKI KO

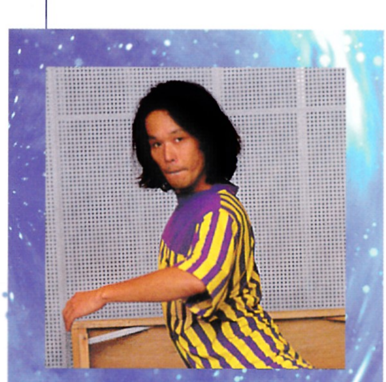
'88年宝塚歌劇団を退団後、テレビ、ラジオ、舞台と幅広く活躍。主な出演作NHKドラマ「ごめんねコーちゃん」ミュージカル「ブラッドブラザース」「レ・ミゼラブル」、花組芝居「雪之丞変化」等。

これまで何度か外国人演出家とお仕事をして、うまくコミュニケーションできないのが残念だったんです。それで英会話を習い始めて、今回、その成果が問われるはずなんですけど…。でもロッコさんが明るい方なので、楽しいことは間違いありません。

佐々木しんじゅ SHINJU SASAKI

1964年生まれ。宮城県出身。主な出演作品「マイフェアレディ」「エニシングゴーズ」「魔女の宅急便」等。振付家としても活躍中である。

セットもきれいで凝った仕掛けもあって、楽しい舞台ですよね。やってても楽しいです。でも踊りはシンプルなようでむずかしい。結構、苦労してます。といっても僕は機械人間役で、顔がわからないから発見しにくいですよね。さて、私はどこでしょう?





飯島 千絵 CHIE IIJIMA

'96年舞台芸術学院ミュージカル本科卒業。『野尻』賞を受賞。現在までに、忠の仁演出「スウィート・チャリティー」(チャリティー役)、山口琇也作曲「舞台に立ちたい」「ゴースト」等、いずれも重要な役で好評を得る。

カンパニーの中では最年少ですし、大きい舞台は初めてで緊張してます。「999」は私より上の世代がハマッていましたね。ウチは母が大ファンでメーテルのマンガとか描いてました。将来は大きい舞台で主役ができたら…なんて思っています。



鹿志村 篤臣 ATSUSHI KASHIMURA

武蔵野音大出身。「坂本龍馬」「花」「クッキングガール」「ごんぎつね」「ホフマン物語」「ファンタスティックス」などミュージカルを中心に活動しているが「魔笛」の僧侶等オペラでも活躍している。

アニメを生身の人間が演じることで、原作がどう形を変えていくのか。その中で自分がどう変わるのか。90%の期待と10%の不安とを抱えながら舞台に立っています。「999」はTVで見ていました。当時を思い出しながら、新たな気持ちで取り組みます。



岡田　静 SHIZUKA OKADA

長野県伊那市出身。9月29日生まれ。劇団四季付属研究所から劇団四季入団。退団後も歌とダンスを武器に数々のミュージカルに出演。主な出演作:「コーラスライン」「キャッツ」「スクルージ」「ピーターパン」(タイガーリリー役)「ミス・サイゴン」(ジジ・エレン役)「フェーム」(カルメン役)他多数。

30の手習いでローラーブレードに初挑戦しています。"天下の少年女優"といわれてン年たちますが、その名に恥じないよう、これからはプロフィールの特技の欄に「滑りもの」と書けるよう、この公演中に上達しようと思っています。楽しく、でも頑張ります。

瀬尾 智美 TOMOMI SEO

1969年11月21日生まれ。'89年劇団スーパー・エキセントリック・シアターに入団。以後、舞台、映画、テレビなど多方面で活躍中。劇団以外の主な出演作品は「セーラースターズ」映画「濹東綺譚」「午後の遺言状」他。

初恋の人が大好きだったんです、「999」を。それで私も好きになろうとTVを見始めた記憶があります。ふだんSETという劇団に所属しているんですが、まったく別のメンバーが集まる今回の舞台は、劇団とは違う自分を発見できて、毎日新鮮です。



初音 ひかり HIKARI HATSUNE

神奈川県出身。3月5日生まれ。血液型A型。SKD退団後の主な舞台作品「ミス・サイゴン」「LADY IN THE DARK」「魔女の宅急便」「ごんぎつね」他レビューショー等多数出演した。踊りに柔軟性とキレがあることで定評がある。

ロッコさんのハイテンションにつられて、稽古場もいい雰囲気。実は「999」はSKD時代に、青山劇場で1回体験しているんで、何か縁を感じます。今回は装置も衣裳も素敵で、とっても創造的だと思う。一からみんなとつくりあげる楽しみがありますよね。





土井 恵利加 ERIKA DOI

1973年11月24日生まれ。'93年12月から翌年1月まで青山劇場「ラカージュ・オ・フォール」に出演。以後、帝国劇場「サウンド・オブ・ミュージック」青山劇場「エニシングゴーズ」等に出演。

ロッコ氏の演出は、言葉よりフィーリングで「こういう感じ!」って伝えてくれるのが逆にすごく解りやすい。稽古場も自由な雰囲気が流れていて、すごくいいですよ。今回は機械人間の役でなんです。うーん、心はあるのかな? なんて迷いながら稽古してます。

天白 由起 YUKI TENPAKU

OSK日本歌劇学校卒業のち上京。「シーソー'96」「yesterday is...here」「パパの誕生日」劇団マガジン「ホーンテッドハネムーン」他、ショー等にも出演。'96年コーラスグループ「Suite Voice」結成、活躍中。

ちょうど思春期の頃、TVや映画でずっと見ていた作品なので、親しみを感じながらやっています。毎回、次の放送が楽しみでした。そのドラマチックなアニメの世界の一部に、自分がポンと入ってしまったような感じが出せたらいいな、と思っています。





高橋 伸仁 NOBUHITO TAKAHASHI

武蔵野音大でオペラを勉強していたがミュージカルに興味を持ち、「三銃士」のリシュリューを初役に「マイフェアレディ」等、ミュージカルで活躍する。CMソングも多数こなし、最近ではヤマト運輸のCMにも出演。

アンサンブルの他にドクター蛮の声もやっています。僕は歌の仕事が多いので、セリフの指導をしてもらってとても勉強になりました。演出のジェイミーが「一種の神様であり、みんなのお父さん」といった蛮をどう表現するか。難しいけど楽しい挑戦です。



平澤 由美 YUMI HIRASAWA

エキゾチックな顔立ちだが、生粋の東京っ子。特技は何処でも眠れること。主に舞台を中心に活動。出演作には「オズの魔法使い」のドロシー、「アイリーン」、山本周五郎作「さぶ」のおのぶ、「HAIR '97」などがある。

歌の勉強をずっとしてきたので、今回、都倉さんの曲がとても楽しみだったんです。期待通り、どれも素敵な曲でうれしい。もちろん役者としても、この舞台が持つ人間的な部分と宇宙的な大きさ、その両方を感じてもらえるように頑張ります。

藤浦 功一 KOICHI FUJIURA

1966年生まれ。キレの良いダンスを見せてくれるナイスガイ。まじめにレッスンを積み、歌も演技力も上々の努力家。「回転木馬」「蜘蛛女のキス」等さまざまな舞台で活躍。ミュージカルには欠かせない存在である。

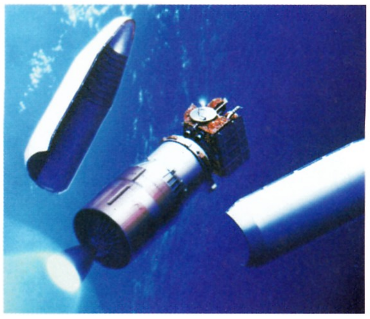
オリジナルミュージカルをつくるって、明らかに大変なことだと思うんです。その初演にかかわれるなんて、すごいことですよね。でもみんなでいろいろ相談しながら稽古を進めるのは、オリジナルならではって感じで楽しいです。



未来の宇宙ロケットの形は？

まさに"銀河鉄道"のタイトルどおり、999は宇宙空間を駆ける列車車輌なわけだが、現実問題として、これはちょっと難しい。そもそも宇宙空間にいったいどうやって線路を敷くというのか??……なんて野暮な話はいいっこなしだ。とはいえ現実の宇宙旅行の主役といえば、誰もが想い浮かべるのが流線型でペンシル状の、あのロケット船だろう。

空気を必要とするジェット機に対して、真空中で自分が持っている燃料と推進剤を燃焼させて移動飛行するものをロケットという。1918年にアメリカのゴッダードがロケット機による飛翔に初めて成功。第2次世界大戦時にドイツのフォンブラウンが開発したV—2ロケットによって、その形が確立した。1957年に旧ソ連が打ち上げた最初の人工衛星の成功から、米ソの熾烈な宇宙開発競争においてロケット研究も加速する。その頂点ともいえるのがアポロ計画において人類初の月面着陸成功に用いられたサターン5型ロケットだった。



ロケットは1回飛ばしたらそれっきりの使い捨て状態が長く続いた。べらぼうに経費がかかりすぎるということで、これに代わる反復使用可能な有人宇宙連絡船を、アメリカが開発し出す。それがスペースシャトルだ。その形はといえば、ジェット機のような翼をもち、地球を周回する軌道に乗り、最後にはまた大気圏内に帰ってきてグライダーのように水平飛行をして着陸するというものだ。宇宙ステーションへの乗員の輸送、資材補給、人工衛星の運搬などの用途で期待され、1981年のコロンビア号で初の軌道飛行に成功するが、1986年、発射直後に爆発炎上したチャレンジャー号の大惨事のせいで、スペースシャトル計画全体は大幅にたち遅れてしまった。

冷戦終結後、宇宙開発競争もまたすっかり熱が醒めてしまった感じもあるが、ロケットもまた小型化、低コスト化することで、国の主導型ではなく、民間の商用ベースを見込む計画もあらわれつつある。

「GX999」は未来の物語。
でも、それほど遠いことではなさそうです。
ほら、こんなに"今"とつながっている。

999大事典

メーテルはプロメシウムの命令に疑問を抱いてるけど、母親との関係に悩む娘って、多いですよね？

80年代のブランドブームの頃、"一卵性親子"という言葉が一般に浸透し始めた。当時は育ちのよさ、品のよさが何よりのステイタスで、結婚した娘が母親とおしゃれなランチを囲むライフスタイルや、母娘で行くパッケージツアーがもてはやされた時代。そんなバブル経済の豊かさを背景に、いつまでも母親に依存して親離れできない子供が増えていると指摘されたのが始まりだった。

その裏には、年齢を重ねても元気な母親が多くなったという事実が。彼女達は経済的にも余裕があるため、子供達は親に対して"よい子"としてふるまい、庇護を求めながら生きたほうが楽と判断。いつまでも母と同じ価値観で生きる、一卵性親子の構図ができあがったのだ。一方、母子幻想とも呼べるそうした結びつきを打ち破る父親の存在が薄いのも問題。母子関係は昔から偉大なつながりではあったが、かつての家族は「母親は父親のもの」という意識を持っていた。しかし最近は父親と母親の関係が急変。男性的な面もあわせ持つ"両親的母親"の力があまりに強く、子供をとりまく世界は、母の存在のみで完結してしまうようになったのである。

ところがメーテルのように、ある時期「実はこれまで母親に、自分の人生を台無しにされてきたのではないか」とハタと気づき、自立のための反乱を起こす人も増えている。その時期は20代～40代とさまざまで、愛情が深いぶん逆に憎しみを募らせてしまい、母親に刃物で切りつけるなど、極端な行為に出てしまう人もいるという。

今後、昔ながらの父権が復活するとは考えられず、一卵性親子はますます増加していくのではないかと予想される。（精神科医＝香山リカ・談）



Q
鉄郎は仲間とギャングをやってたけど、今の地球にも少年ギャングはいるの？

A
学校にも行かず、1日を路上で過ごす子供達──いわゆるストリートチルドレン──は、ユニセフの報告によると、全世界で1億から2億人といわれている。バラつきがあるのは国によって定義が「街頭を常の住みかとしている青少年」や「日中は路上で働き、夜になるとスラム街などにある貧しい家に帰っていく子供達」など様々なため。

いずれにしても近年急増中で、その背景には、急速な都市化、人口増加など、現代社会がかかえるさまざまな現象があり、彼らはそのひずみから生まれた被害者ということができる。地域から見ると、経済発展の途中にある国に多く、特に中南米は最も深刻といわれている。また、民主化以前は存在しなかったロシアでも、現在は路上での児童労働が問題化している。

問題なのは、ストリートチルドレンが犯罪と関わっていく危険と隣合わせにあることで、鉄郎と仲間達の機械人間に対する行為もそのひとつといえるだろう。『ユニセフ97年世界子供白書』によると「フィリピンのマニラで4歳からキャンディを売ってくらしている10歳のジョシーは“悪の手に落ちないよう毎日祈るだけで精一杯”という」ほど。もちろんジョシーのように地道に、合法的に働いて家族の生活費を稼ぎ出している子供もいるが、スリや強盗、薬物の密売、売買春などの犯罪行為に巻き込まれる可能性は高く、またアジアでは、売買春による子供のエイズの蔓延も問題になっている。さらに彼らは周囲からやっかい者扱いされることが多く、1993年にはブラジルのリオデジャネイロで、警官6人がストリートチルドレンを虐殺するという痛ましい事件も起きている。

わが日本では近年、ストリート文化が大流行。90年代はじめから、東京・渋谷の路上を拠点とするチーマーが出現、彼らが中年男性を襲う“オヤジ狩り”が話題にのぼった。ただしこれは、世界各地のストリートチルドレンとは反対に、日本経済の豊さのあらわれといえるだろう。

Q
機械人間のように、肉体は機械化できるのだろうか？また、ロボットはどれだけ人間に近づいているのだろう。

A
アン・マキャフリイという女性SF作家の代表作に『歌う船』というものがあるが、これは生まれながらにして重度の身体障害をもった主人公が金属製の体で育ち、さまざまな訓練ののちサイボーグ宇宙船となって、宇宙空間を“歌い”ながら航行するという話。これは、トチローをどこか彷彿とさせる。

ロボットにサイボーグにアンドロイド……。ポピュラーなこれらの用語だが、厳密にいうとニュアンスはかなり異なる。まずロボットというのは、チェコの作家カレル・チャペックの『R. U. R.』という戯曲に起源をもつ言葉で、精巧な装置（機械）による人工の自動人形を総称するもの。人型ではなくとも、特定の操作・作業を自動的に行なう機械／装置も、工業用ロボットと一般に呼ばれている。ちなみにSF作家アシモフが考案した有名なロボット3原則とは以下のとおり。①人間に危害を加えてはならない。②人間の命令に服従しなければならない。③前①②項に反しない限り、自らを守らなければならない。人間狩りに熱中する機械人間たちは、この定義からは大きくはずれる。

サイボーグとは改造人間とも訳され、当初の意図は、人間の諸器官を医学的に人工機器に置き換え、宇宙空間などの極限状態でも生きていけるようにしようという発想だった。とはいえ現在の我々の身体はすでに、簡単なものでは入れ歯やコンタクト・レンズ、義肢、さらには人工臓器などのメカニズムや異物によって人体改造されている。従ってこれらを装着した人は厳密にいえば、みなサイボーグなのだ。サイバーパンクSFの勃興以降、特に人間の意識をコンピュータメモリー、ひいてはネットワーク空間（サイバースペース）と接続するというアイディアが席巻したが、携帯端末やAV機器なども また、人間の身体感覚を拡張し変容させていることは確かなのだ。ちなみにアンドロイドとは人造人間＝人間そっくりのロボットをさす。

Q
プロメシウムは機械帝国の女王。では現在、地球上にいる女王は何人？

A
外務省発行の『外交青書』によると、立憲君主制もしくは君主制、王制をとっている国は、オーストラリア、カンボジア、タイ、ニュージーランド、ネパール、ブルネイ、マレーシア、カナダ、ジャマイカ、オランダ、スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、ベルギー、ルクセンブルグ、イギリス、ジョルダン、パプアニューギニア、オマーン、サウジアラビア、モロッコなど28ヵ国。意外に多いように思えるが、第2次世界大戦以前にはその2倍を超える60ヵ国を数えていた。だが革命やクーデターによって、戦後だけでも22ヵ国が君主制を廃止。現在存続している君主制も“絶対君主”的な響きは失っており、いまやほとんどが民主主義と共存しながら続いているという状態だ。

ちなみに現在、世界で活躍する女王は、オランダのベアトリックス女王、デンマークのマルグレーテ2世、イギリスのエリザベス2世のお三方。イギリスでは、かつて女性の王位継承を認めてこなかったフランスなどと違い、国王の妻となった女性にも「クイーン」の称号とともに王位継承権が与えられる。

クイーンという言葉には「王妃」と「女王」の2つの意味がある。去る9月、不慮の事故死をとげた元英国皇太子妃・ダイアナさんも、もしチャールズ皇太子と離婚しなければ、クイーンと呼ばれる日が訪れていたに違いない。



Q
車掌さんは999の出発を遅らせて特別ボーナスをもらったけど、もし本物の地下鉄を遅らせたらどうなる？

A
昭和2年12月30日に上野─浅草間が開通、今年開業から70年を迎えた日本の地下鉄。営団地下鉄によると、その長い歴史の中でも個人の都合で列車を制止したことは、これまで1度もないそうだ。営団地下鉄の場合、約2分（朝混雑時）という短い間隔で発着を繰り返す路線も多く、出発を5分遅らせると、列車を2.5本運休させることと等しく、多くの乗客に迷惑をかけることは必至。999の車掌さんのように昇進したりボーナスをもらうことなど、絶対にありえないとのこと。

鉄道は安全と定時運転の確保が使命。個人の願いや車掌の都合で発車時刻を遅らせることは、まったくもって考えられないという。だから現在“遅らせた場合の”懲罰や賠償の規定はされていない。それくらい、定刻通りの運行が大前提なのだ。

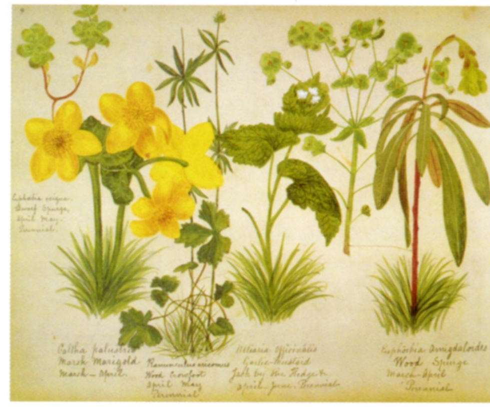


Q 肉体が消滅しても、意識だけが残る登場人物たち。死者との対話って何だろう？そして不死とは？

A 科学や技術がいかに進歩しようとも、人間が乗り越えることのできない永遠の謎のひとつ…それが死だ。死後、人間の肉体はほどなく朽ち果ててしまうが、人の魂は何らかの形で生きながらえるという発想は、埋葬の習慣が認められた4万年前のネアンデルタール人の時点で、すでにみられた。

死者（の霊）と交信できる特殊な能力の持ち主を一般に霊媒とよぶ。現在もなお世界中の未開社会に広く認められるこの霊媒だが、多くの場合、彼らは意識を完全に保った状態より、むしろトランスとよばれる一種の酩酊状態のさなかでその特異能力を発揮する。冥界からのメッセージは霊が直接話りかけてくる場合もあれば、物理的な形やサインとなってあらわれる場合、霊媒に憑依しその口を通じて語られる場合などがある。日本でいう青森県恐山のイタコなどは、その最後のパターンの代表格だ。故人と対話したいという望みを持つ者は、霊媒師や降霊術師にすがりついたわけだが、科学テクノロジーの発達は発想の転換をうながし、たとえ肉体が死を迎えても、その心だけを生き永らえさせ、延命させようというアイディアが進展する。実在するアメリカの延命協会の中には、余命いくばくもない患者の頭部を切断し、マイナス186度の超低温液体窒素のなかに冷凍保存し、来るべき将来、その細胞のひとつから新しい体をクローン再生し、新しい器（＝体）に、保存してあった古い脳を入れることで、不死を獲得するのだと主張する組織もある。

このマッドサイエンスチックな着想の実現可能性は決してゼロではないとはいえ、疑問が残る。昨今のトレンドとしてはむしろ、人間の脳に蓄えられた記憶や思考を「情報」として読み取り、それを体外のコンピュータに転送することで「永遠の生」を獲得するという方法論が（一部の人工生命学者のあいだでは）真剣に考えられている。



Q ひとつの花の種に託されたすべての生物の遺伝子…。遺伝子っていったい何？

A 親の持つさまざまな性質が親から子に伝わる現象を＜遺伝＞といい、これは遺伝形質を決定する因子が、精子や卵子といった生殖細胞を通じて伝わるためとされている。この因子が＜遺伝子＞だ。これらは細胞内部の染色体上に存在し、その実体は核酸の一種、DNAであることが判明。あらゆる生物の遺伝子情報は、蛋白質のアミノ酸配列を規定する、核酸の塩基配列に還元できるシンプルな構造に込められているのだ。

近年の生物科学の発達は、DNA産業を一気に開花させた。各種生物に固有の、また異種間に共通するDNA情報を解析することで、生物の機能を遺伝子レベルで解明し、これを工業的に利用しようという動きが盛んだ。従来のバイオテクノロジーでは不可能だった微細な生物機能を産業に結びつける構想が生まれ、現在は情報、医療、食品、化学などの各分野でその応用が進められている。遺伝的な病気を治す遺伝子治療が開始されたり、トマトやイネなどの遺伝子組み換え植物の栽培実験によって、効率的かつ高品位な収穫が期待されるなどが、その身近な例だが、こと遺伝子組み替え食品などについては、安全性をめぐる議論など不透明な部分も少なくない。



さらに人間の遺伝子地図（30億もの塩基体が、どの遺伝情報に対応するのか）を特定する＜ヒト・ゲノム計画＞の進展も、先端生物学の成果といえる。かつては生命の神秘とされてきた遺伝のメカニズムは、1953年のワトソン＆クリックによる＜DNA二重らせん構造＞の発見によって、ほぼ解明されたといっていい。以後、生物の持つDNA情報の解析は急速に進展し、現代生物学はやがて細胞の働きをほぼ分子レベルで解析しつくしてしまうだろうといわれている（ちなみに残された謎は、脳と神経、そして発生のメカニズムなど）。人間はまさしく創造主＝神の領域に……望む望まざるにかかわらず……すでに足を踏み入れているのだ。

Q 機械伯爵の時間城のような、タイム・マシーンができる可能性はあるの？

A タイム・マシーンとはそもそも、1895年にH・G・ウェルズが発表した同名小説の中で発案されたもの。以前にもファンタジー小説などで、人間が過去の世を訪れるという話はままあったが、ウェルズ作品は超自然的な方法ではなく、人間が作った機械によって意図的に時間旅行する…という部分が斬新だった。

ウェルズの予言はいくつかの側面から、先端科学的にもその実現可能性が指摘されている。ひとつはタキオンという素粒子を利用する方法。タキオンとは〈虚の質量〉を持ち、光速よりも速く運動する粒子とされているが、現時点では理論的に仮想されているにすぎない。とはいえ理屈上では存在しうるもののため、これが物理世界で発見されれば（相対性理論上、光速を超えるということは、過去に遡るということと同義であるため）それを自在に操れる技術さえ人類が持てれば、タイム・マシーンは実現する可能性がある。

もうひとつの時間旅行の可能性が、宇宙空間のどこかにあるブラックホールとホワイトホールをつなぐ〈ワームホール〉といわれるものを利用する方法。これもまた、現時点では仮想的な時空概念だが、宇宙のどこかにそれが存在することは、多くの天文学者が共通して主張していることだ。あるいは将来的な超技術によって、人為的にこれを発生させることも考えられている。現に1988年の「フィジカル・レビュー・レターズ」という物理学専門誌に、〈ワームホール〉を安定して存在させる方法に関するレポートが掲載され「タイム・マシーンの作り方」と騒がれた。

こうした考え方の一方で、「過去、遠い場所に存在した物質に触れることで、異なる時空間の情報を読み取る」という〈サイコメトリー〉なる超能力の一種によっても、時間旅行は可能だと主張する人もいる。

「バック・トゥ・ザ・フューチャー」のような映画がウケるように、時間を超えて存在したいという想いは、人類の共通の夢なのだ。

ジェームス・ロッコ
JAMES ROCCO／演出・振付

「キャッツ」「ソフィスケーテッド・レディース」のインターナショナル・ツアー等、ブロードウェイのパフォーマーとして活躍。1988年「ジーザス・クライスト・スーパースター」のプロダクションで演出家・振付師として頭角をあらわし、その後数々の劇場で演出を手掛ける。'94年ザ・ペーパー・ミル・プレイハウスで行われた「雨に唄えば」の演出・振付は、ニューヨーク・タイムズで「熱心で輝いたリバイバル・・・格別の成功作」と高い評価を受ける。この「雨に唄えば」は昨年日本初演され大成功を納めた。最近では、マディソン・スクエア・ガーデンでの「オズの魔法使い」の振付、ザ・ペーパー・ミル・プレイハウスでの「ビッグ・リバー」の演出・振付を手掛け好評を博した。

JAMES ROCCO





SHUN TOKURA

シュン・トクラ
SHUN TOKURA／作曲、アーティスティック・スーパーバイザー

日本では作曲家都倉俊一として、「日本レコード大賞作曲賞」「日本歌謡大賞」「東京音楽祭最優秀作曲賞」「日本レコード大賞」などの音楽賞をほぼ取り尽くし、'83年渡米。ロサンゼルスを拠点に、映画音楽に進出。ブロードウェイでのミュージカル参画も多数。'94年日本人の作曲家として初めてのオリジナルミュージカル「アウト・オブ・ザ・ブルー」をロンドンで公演し注目を集める。イギリスの舞台芸術との関わりも深く、「黒い服の女」のプロデュース、「インスペクター・コールズ」（アートスフィア）などの日本公演に携わっている。

ダグラス・A・ブレイフィールド
Douglas A.Brayfield／作詞

エミー賞を3度受賞しているジェームス・ディ・パスカルとの共作「ネバー・ネバー・ランド」やミュージカル「EFX!」の曲「インタープラネタリー・スリーリング・ショーメン」の作詞を手がけている。映画や人気TVドラマにも詞や曲を提供するなど、活動は多岐にわたる。

メラニー・ミンツ
Melanie Mintz／脚本

「ジャスト・ワンズ」「ア・ホット・ミニット」などオフ・ブロードウェイきってのヒットメーカー。「リーダー・オブ・ザ・パック」はブロードウェイでも大好評。ディズニーのミュージカル映画ほか、全米大ヒットTVドラマ「ノッツ・ランディング」やドキュメンタリーを執筆するなど、舞台以外の活躍もめざましい。

松田直行 Naoyuki Matsuda／訳詞・日本語脚本

1992年、早稲田大学大学院博士後期課程（演劇学）終了後、数々のミュージカル作品の翻訳及び訳詞を担当。主な上演翻訳作品に、「スイート・スウ」（翻訳）「フォービドゥン・ブロードウェイ」（字幕）「ザ・ロッキーホラーショー」（翻訳）「グッバイ・ガール」（訳詞）「アニーよ銃をとれ」（翻訳）等がある。

森安　淳 Atsushi Moriyasu／美術

1973年に渡米。'81年舞台美術家としてオフ・ブロードウェイ・デビュー以来現在まで、美術家、プロデューサー、演出家としてニューヨークを拠点に活動。'93年よりサイトウ・キネン・フェスティバルにてオペラのプロデューサーを務めている。現在ケベック・シティーのテアトル・トゥリダンにて演出家ロベール・ルパージュと「テンペスト」を製作中である。

原田　保 Tamotsu Harada／照明

11971年より、吉井澄雄氏、沢田祐二氏に師事。'83年照明デザイナーとして独立、舞台を中心に幅広く活躍。'87年以降の蜷川幸雄演出作品の多くを手掛け、近年の舞台作品には「ハムレット」（銀座セゾン劇場）「夏の夜の夢」などがある。また、ミュージカルでは「ピーターパン'94～'97」（演出加藤直）「DORA」（演出フィリップ・ドゥクフレ）など多数ある。

松木哲志 Tetsushi Matsuki／音響

ミュージカル、コンサート、オペラ等様々なジャンルの音響デザインをはじめ、劇場や野外空間の音響設計デザインまで幅広い活動をしている。数多く手掛けたミュージカルの中に「アイ・ガット・マーマン」「シティ・オブ・エンジェルス」「ブラッド・ブラザーズ」「シンデレラ」「雨に唄えば」等がある。

前田文子 Ayako Maeda／衣裳

1988年より舞台衣裳家緒方規矩子氏に師事。オペラ、バレエ、ミュージカル、芝居等の衣裳デザインを学ぶと同時に、同氏作品のアシスタントを多数務める。'90年に宮沢賢治作「おばけのネネム」にて衣裳デザイナーとしてデビュー。以後、佐藤信演出「フローティングワールド」宮本亜門演出「椿姫」「マウイ」栗山民也演出の「火の鳥」など、多数の作品の衣裳を手掛け高い評価を得ている。'95年度伊藤熹朔賞新人賞受賞。

高橋　司 Tsukasa Takahashi／舞台監督

劇団四季演出部を経て、ジャパン・アーティスト・フォーメーションを設立後、現在フリー。主な舞台作品に、「コーラス・ライン」「キャッツ」「エビータ」「恋の骨折り損」（RSC）「アナザー・カントリー」「王女メディア」（蜷川カンパニー）等がある。

菅原道則 Michinori Sugahara／演出補

1973年、松竹（株）入社。国際劇場、松竹歌劇団製作部を経て、'85年松竹（株）退社、フリーに。「心残して・座・麗美夢」等の演出作品の他、演出補・助手として携わった作品に、「黒蜥蜴」（坂東玉三郎演出）「ナスターシャ」（アンジェイ・ワイダ演出）「エリザベス」（ヌリア・エスペル演出）「ラヴ」（勝田安彦演出）等がある。

ハイディ・キャロル・ジョンソン Heidi Karol Johnson／演出・振付助手

「ジーザス・クライスト・スーパースター」「ビッグ・リバー」のブロードウェイ・ツアー・カンパニーや、最近ではプレミア公演の「オズの魔法使い」等に出演。1992年には「アイ・ガット・マーマン」公演の為来日もしている。ジェームス・ロッコ氏の助手として携わった作品に、「雨に唄えば」「グリース」「アニー」等がある。

眞野　純 Jun Mano／技術監督

1973年俳優座劇場入社。'87年には文化庁芸術家在外研修生として渡英し、ロイヤルオペラハウス他にて舞台美術及び劇場技術を研修。その後、'91年に独立し、多くの作品で技術監督・舞台監督として活躍。アートスフィアでは、「インスペクター・コールズ」熱帯祝祭劇「マウイ」「蜘蛛女のキス」等の作品を手掛けている。

池上知嘉子 Chikako Ikegami／ミュージカル・ディレクター

音楽スタッフとして数々のミュージカル、コンサート、ストレートプレイに参加。主な作品に、「ANZUCHI」「ZEAMI」「 ムーンリットクラブ」「魔女の宅急便」「ブラッド・ブラザース」等がある。

グレン・ケリー Glen Kelly／ダンスアレンジメント&インシデンタルミュージック

ブロードウェイにてピアニスト、ミュージシャンとして活躍。代表作として、「スティール・ピアー」（ダンス&インシデンタルミュージック）「美女と野獣」（ダンスミュージック、ピットピアニスト）「クリスマス・キャロル」（ダンス&インシデンタルミュージック）「ダンス・リトル・クローサー」（ダンスミュージック）等があり、現在、マーサ・グラハム舞踊団の新作バレエの曲のアレンジを手掛けている。

アンドリュー・ワイルダー Andrew Wilder／オーケストレーター

ブロードウェイでミュージカル・ディレクター、コンダクター、ピアニスト、アレンジャーとして活躍中。主な作品に、「キング・デイヴィッド」（シンセサイザー、プログラマー）「ジェントルメン・プリファー・ブロンズ」（ミュージカル・ディレクター）「ザ・ファンタスティックス」（ピアノ）「エリオット・ネス・イン・クリーブランド」（ミュージカル・ディレクター）等がある。

GX999 GALAXY EXPRESS

CASTS

星野鉄郎	本田修司
メーテル	大浦みずき
クレア	スージー・カン
リュウズ	杏子
キャプテン・ハーロック	宮川　浩
機械伯爵	留守　晃
シャドウ	鳥居かほり
車掌	三谷六九
プロメシウム/老婆	杉村理加

【999 CREW】

トチロー/金持機械人間	阿部　裕
人間/士官	鹿志村篤臣
機械人間/科学者	佐々木しんじゅ
Dr.蛮/バーテン/人間	高橋伸仁
少年1/機械人間	藤浦功一
少年2/ヒューマンボディ(氷の墓場)	飯島千絵
少年3/ヒューマンボディ(氷の墓場)	岡田　静
人間/ヒューマンボディ(氷の墓場)	幸　和希
金持機械/ヒューマンボディ(氷の墓場)	瀬尾智美
金持機械/ヒューマンボディ(氷の墓場)	天白由起
機械人間/ヒューマンボディ(氷の墓場)	土井恵利加
人間/ヒューマンボディ(氷の墓場)	初音ひかり
機械人間/ヒューマンボディ(氷の墓場)	平澤由美
幼い鉄郎	佐藤史紀
	久保孝典
	峯元一真

MUSICIANS

バンドマスター／ベース	渡辺　建
ドラム&パーカッション	江尻憲和
パーカッション	高良久美子
パーカッション	村松和美
キーボード1	八木淳太
キーボード2	増田順一
キーボード3	中條純子
サックス、クラリネット	斉藤　清
サックス、クラリネット	鈴木和雄
フレンチホルン	古田儀左エ門
フレンチホルン	矢内寿彦
チェロ	橋本　歩

STAFF

作曲	シュン・トクラ(Shun Tokura)
作詞	ダグラス・A・ブレイフィールド(Douglas A. Brayfield)
脚本	メラニー・ミンツ(Melanie Mintz)
演出・振付	ジェームス・ロッコ(James Rocco)
原作・構成衣裳監修	松本零士
アーティスティック・スーパーバイザー	都倉俊一
訳詞・日本語脚本	松田直行
訳詞(「銀河の果てまで」)	Haruka
美術	森安　淳
照明	原田　保
音響	松木哲志
	山本浩一
衣裳	前田文子
ヘアメイク	林　ゆうこ
演出補	菅原道則
演出・振付助手	ハイディ・K・ジョンソン(Heidi Karol Johnson)
通訳	中原　薫
	平野祐子
技術監督	眞野　純
舞台監督	高橋　司
ミュージカルディレクター	池上知嘉子
ダンスアレンジメント&インシデンタルミュージック	グレン・ケリー(Glen Kelly)
オーケストレーター	アンドリュー・ワイルダー(Andrew Wilder)
	アルビン・クノプカ(Albin Konopka)
コンダクター	八木淳太
音楽監督助手	中條純子
写譜	ベルカント
美術助手	浅見大治
技術監督助手	大平久美
	堀内真人
舞台監督助手	定平信夫
	渡辺　裕
	本田康広
	松井　潤
	小池あけみ
	青柳克己
	安部達也
	針生信一
照明	山下　厚
	原島由起子
	飯泉　淳
	清水　論
	森田芳一
	吉沢大志
照明アシスタント	吉澤耕一
	藤巻　聡
パニオペレイション	沼田成美
音響	山本浩一(サウンドクラフト)
	小坂登起(サウンドクラフト)
	武田安記(サウンドクラフト)
フライング	村上舞台機構
ローディー	佐藤智浩(サンワード)
	宮沢浩二(サンワード)
	森泉周治郎(サンワード)
ヘアメイク	スタジオAD
特殊効果	糸田正志(特効)
衣裳	石原淑子
	長井敦子
	伊藤嘉世美
衣裳製作	アトリエ・トモヨシ
	友好まり子
	山内光子
大道具	村上舞台機構
	C-COM
小道具	福田秋雄(ゼペット)
	高橋　環(ゼペット)
	高津映画装飾
	サブロクカンパニー
	竹林賢二(C-COM)
	オサフネ製作所
楽器	サンフォニックス

主催	東京オピニオンズ
	テレビ朝日
	TOKYO FM
後援	朝日新聞社

協力	JR東日本
	BMGジャパン
	キャナルミュージック
	東芝EMI
	ポリドール
制作協力	えとせとら・eye
招聘	プロマックス
企画・製作	スフィア

チーフプロデューサー	谷村治子
プロデューサー	三瓶雅史
	伊藤成一(えとせとら・eye)
制作	太田　衛
	山東章代
制作助手	稲村宗子
	廣木由美
制作デスク	山田倫子
広報宣伝	梅原裕史
	小田裕子
営業	秋葉圭一郎
	小笠原雅之
	大道みどり
運営	矢作正幸
操作	今野雅吉
照明	望月圭介
音響	木田雅之
テレビ朝日	佐々木禄郎
	石島　進
	塚崎旬子
	高橋利江
TOKYO FM	笹山正勝
	南　美樹
	小松香織

広報宣伝ツール・プログラム制作

アートディレクション/デザイン	田中正人
デザイナー	井原清人
イラストレーション	武田育男
写真	渋谷健太郎
プログラム企画編集・取材	徳永京子
	湯山玲子
	木村重樹
	静　麻理子
デザイン協力	ディアン・コミュニケーションズ
ポスター、チラシ印刷	パイロットアド
プログラム印刷	東陽印刷所
パブリシティ協力	高瀬由紀夫(プランニングステーション)

SPECIAL THANKS	プロダクションアーツ
	増田俊郎(パワーBOX)
	君塚　一(サンミューズ)
	第一ホテル天王洲倶楽部
	高安和子(プロマックス)
	アルゴン社

東京オピニオンズ運営委員

梶原　薫・木原敏雅／鹿島建設株式会社
所　正喜・小笹宏文／株式会社関電工
宮島康昭・伊澤成人／コクヨ株式会社
一色英弥・高橋敦子／株式会社サンゲツ
石川莞士・山本義知／新日軽株式会社
安部修一・倉本修介／新菱冷熱工業株式会社
森　宏之・上岡弘和／大成建設株式会社
吉澤左一・清水郁也／株式会社第一ホテルエンタープライズ
小林篤儀・前田政行／東京コカ・コーラボトリング株式会社
日岡裕之・鳥羽圭子／日本航空株式会社
葭　孝久・中西達也／阪急電鉄株式会社
北島敏男・備前秀一／株式会社日立製作所
松尾　敏・渡辺直喜／明治生命保険相互会社
三賀康隆・山下一夫／三菱商事株式会社

Special Sponsored Companies for The Musical GALAXY EXPRESS 999

インペリアル・リゾート

株式会社 エイチ・アイ・エス

L&M INTERNATIONAL CORPORATION

KOSÉ

Konica コニカ株式会社

CORAY コーレー株式会社

SHIBAURA GROUP 芝浦グループ

JALECO 株式会社ジャレコ

SEIKI VALVE & SPEAR SYSTEM

東映株式会社

TOSHIBA EMI

Nakazawa 中沢フーズ株式会社

Coca-Cola

ピーアーク株式会社

BMG RCA アリオラ ジャパン

HIGA INDUSTRIES

フォーラムエンジニアリング

Polydor ポリドール株式会社

RJR MC TOBACCO レイノルズ・エム・シー・タバコ株式会社

株式会社ワコール

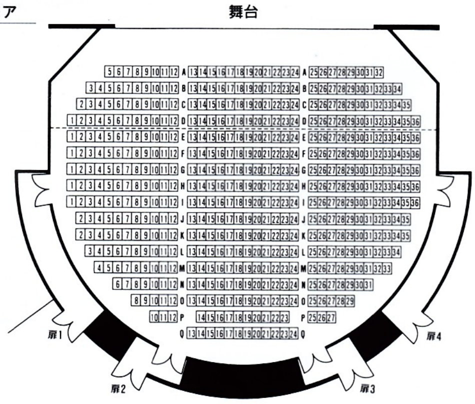
WE WILL PRESENT LOVE & PEACE FOR ALL THE CHILDREN

Super Planning Co., Ltd.

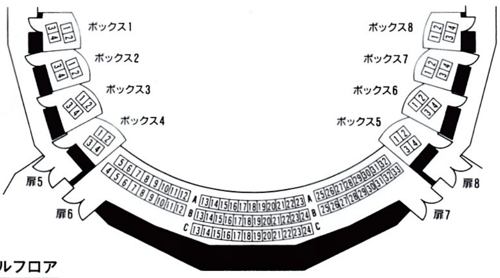
アートスフィア座席表

客席数746席
オーケストラピット使用時
A・B・C・D列（計130席）除去

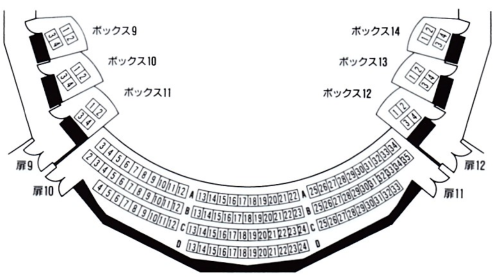
オーケストラフロア
劇場1階
516席



サークルフロア
劇場2階
101席



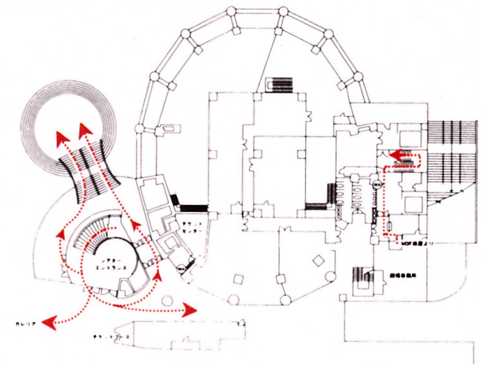
アッパーサークルフロア
劇場3階
129席



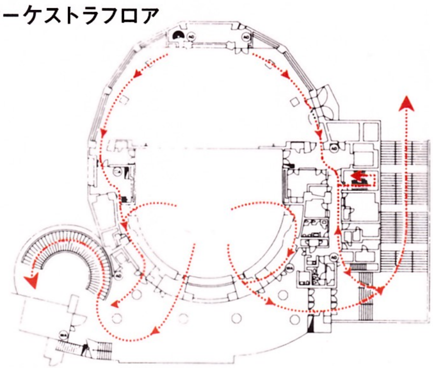
避難経路図

避難経路　WA 強化液（中性）消火器　AD 粉末消火器　屋内消火栓

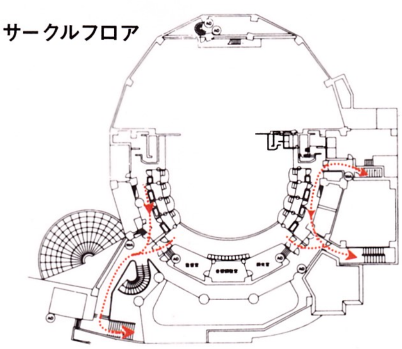
2F／シアターエントランス



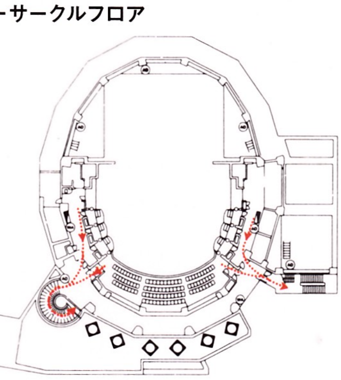
3F／オーケストラフロア



4F／サークルフロア



5F／アッパーサークルフロア



お客様へ

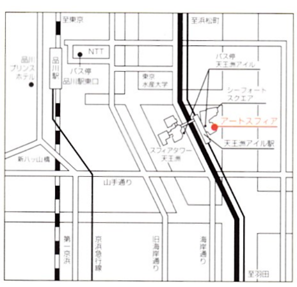
●指定場所以外での喫煙は、火災防止のため固くお断りいたします。
●許可された場合以外、劇場内にテープレコーダー、カメラ等、録音、録画、模写などに使用する機材及び飲食物、危険物を持ち込むことはできません。
●お客様のお呼び出しはできません。
●出演者の病気、事故、その他の都合により当日の内容、出演者の一部を変更する場合がございます。ご了承下さい。
●開演時間に遅れてご来場のお客様は、演出の都合でしばらくの間、入場をお待ちいただく場合がございます。
●ご気分が悪くなられた方は、ご遠慮なくスタッフにお知らせ下さい。
●公演によっては、未就学児童の入場をお断りする場合がございます。
●落し物、お忘れ物、おことづけはスタッフにお申し出ください。
●お車でお越しの際、駐車場の確保は、当劇場ではできません。
●劇場内でスタッフの指示及び注意に従わず生じた事故について、当劇場では一切責任を負いません。
●その他、スタッフのサービス等でお気付きの点がございましたらお知らせ下さい。

The Musical GALAXY EXPRESS 999
1997年11月5日発行
発行／株式会社スフィア

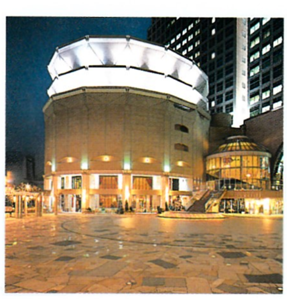
交通のご案内

●東京モノレールをご利用の場合
浜松町より東京モノレールで「天王洲アイル駅」下車、浜松町より5分、下車1分
●JR品川駅（港南口）より「天王洲アイル循環、JALビル行きバス」で天王洲アイル下車、所要時間約5分、下車1分
●劇場観劇のお客様への駐車場割引サービスはございません。

〒140 東京都品川区東品川2-3-16
TEL03-5460-8511







Art Sphere